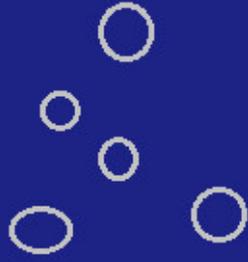


エルガク

ひとりブツリガクの
チヨウセン

エイゾウ



エル イコール
ダブリュエー わる
ダブリュ

目次

エルガク

ひとりブツリガクのチョウセン

エイゾウ

はじめに

わたしは、ズイヒツをネンにニカイテイドシュッパンしている。はじめは、みのまわりのヘンカなどをかいていたが、ダンダン、シャカイケイザイのはなしや、ブツリガクテキなはなしがおおくなってきた。ニュートンがりんごのみがおちるのをみて、ホウソクをみいだしたのにちかい。わたしは、センタクキをみて、ウチュウをかんがえた。

それが、ロクサツシュッパンするなかで、イッサツのブンリョウにタッしたので、まとめてみた。このあともギロンはつづく。だから、またまとめなおすか、ツイカシュッパンすることになる。

はっきりいってここでのギロンはカッテリユウである。わたしは、コウコウでブツリをまなばなかったし、ダイガクもリケイガクブにかよわなかった。しかし、シャカイやニンゲンをケンキュウするよりも、もののホウがタンジュンである（カガクシキをかいてみたらよい）。だから、イチからケンキュウするにはとっつきやすいとおもっている。それなりにまじめにギロンしているつもりである。しかし、たまに、あとでそうではないということがある。まちがうのもギロンをすすめるためにユウコウとおもっている。テイセイはしたいとおもうが、かならずしもされているとはかぎらない。

また、このケンキュウブンヤをかりに、「エルガク」となづけた。「ブツリガク」でもよいのだが、わたしがカッテにやっているのだから、「ブツリガク」ではない。といわれるのをあらかじめふせいでいる。

また、このチョシヨは、タイケイカされていない。ジケイレツでギロンをならべただけである。いずれできたらそういうチョシヨもだしてみたいとおもうが、いまはまだそのときではないとおもう。

ニセンジュウキュウネンハチガツなのか

イチ、『アルクカラカンガエル（イカ、「ア」）』ヒャクジュウゴ

きのうにてがみをおくることを かんがえたり、あしたなら ジョウケンシダイでタッセ

イカノウだ。だが、きのうのジブンがないからとどかないだろうとか。ジカンっていうのはウンドウリョクなんだとおもう。だからイチ「ロコモータイプ」ではかれると。そういうのはむかしからで チキュウのカイテンではかっている。そこまでおおきなウンドウだと なかなか イチニチすすめるのは タイヘンだがまあ、イチニチたつだろう。ま、ひかりなんかでおなじようにかんがえている。

二、『ア』ヒャクジュウロク

ウチュウのレキシをカセットテープが サイセイするとしたら、「オートリバーズ」にしたらウチュウはおわらない。シィディだとちょっとまがあく。ただ、カセットテープのばあい、ギャクむきにカイテンさせないといけない。エンドレステープがもっともよいかもしれない。

サン、『ア』ヒャクゴジュウイチ

なぜウチュウがひろがるか。タブン ウチュウのなかでのダンスがはげしすぎて、ウチュウのそとにもエイキョウをおよぼし、おどることを、ヨウセイしてしまうのだろう。だから「ダンスする」ウチュウはひろがっていくと。チキュウジョウでも、「ジンセイ というダンス」がくりひろげられている。

よん、『ア』ヒャクロクジュウサン

「ジュウリョク」というのは そもそもないのだとおもう。じゃあなぜ りんごが きからおちるんだという。それは カイテンのチュウシンに むかうちからだと セツメイする。チキュウが ジテンしているカイテンジクのチュウシンにむけて うごいた といえるだろう。それをわたしは「うずまきリョク」という。しおのうず（うみの）のヨウリョウだ。そうすると、なぜチキュウや カセイなどのワクセイが タイヨウのまわりを まわるかセツメイでできる。つまり うずをまいている ということだ。でも それじゃワクセイは タイヨウのホウに イドウして ぶつかるじゃないかというかもしれない。しかし、タイヨウは エネルギーというかひかりをはなっている。そのひかりのちから、おもさというか、でキョリをたもてる。だから、タイヨウがエネルギーをハツしなくなったら、それを「ブラックホール」というかもしれないが、チキュウをはじめ、タイヨウケイのワクセイは、シダイにヘンカしたタイヨウに ちかづきショウトツしてしまうだろう。つまり、「りんご」もチキュウの ジテンにヒツテキするちからがくわればおちない。ただ、それがないだけだ。だから、チキュウのジテンがなくなれば、ひとはチュウにうくようになるだろう。でも、ニュートンのジダイには、テンドウセツがまだはばをきかせていて ということはいいづらかったのだとおもう。だから、ダキョウとしての、「ジュウ

リョク」だったのではないだろうか。もっとも わたしはニュートンについてくわしくないので、ジカンがあったら しらべようとおもうが、ニュートンがどうかんがえたかは セイカクにはわからない。

でも、こうかんがえるようになって、なぜ ワクセイが カイテンするのかというなぞがとけた。「かみ」の なせるわざだとかかんがえなくてすむようになった。

ゴ、『ア』ニヒャクキュウ

「クウチュウテイエン（そらにうかぶ テイエン）」など できるものか、などとおもっていたが、できるのがわかるといろいろモンダイがでてくる。ニッショウケンとか。ま、カイケツはカノウとおもうが、というより、クウチュウはだれのものか、というギロンになる。ま、いまのところ、クウチュウのいえのケンセツヒヨウが ヒャクオクエンはかかるとおもうので、あまりモンダイにならないが。

ロク、『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ（イカ、「む」）』ジュウシチ

ベツに「かみ（さま）」はヒテイしないが、わかいころは、なぜ チキュウがまわっているかセツメイできなかつた（そのセツメイは、●よん、『ア』ヒャクロクジュウサン）。そういうバカになんかわるいことをふきこめば、いい（よくないが）キョウキになっていたかもしれない。だから、なんかをふきこまれても、「わからない。」といい、わかるまで まつのがかしこいとおもう。たしかに、だれかにきけばおしえてもくれるだろうが、まあ、そのひとに「でしいり」するようなものだ。

なな、『む』ニジュウ

「なんで いきているのか」ととわれたとき、「なぜ」というイミなら、「なにかをたべるから」とこたえ、「なにが」「いきさせるのか」なら、「ブッシツがうごけるから」とこたえる。そのこたえだと、もし、ブッシツがうごかないようだったら、「いきられない」んだらう。たとえばまわりのオンドがひくいと（それだとブッシツのジョウタイがコタイばかりになる）。そういうブッシツが「うごける」ジョウケンがあるからいきられると。エキタイやキタイだとブッシツはうごけるカノウセイがある。だからタイヨウからとおいカセイより、スイセイ、キンセイのホウがセイブツはみつきりそうだとおもうが、そういう、エキタイセイブツとかキタイセイブツはソウテイガイなのだろう。

ハチ、『む』サンジュウヨン

ジカンを「エル（アルファベット）（ロコモティブ）（●イチ、『ア』ヒャクジュウゴ）」ではかるとしたら、キオンがとてつもなくひくくなれば、セイブツはウンドウが（つまり、キタイ、エキタイがトウケツして）テイシされるだろうから、いきられない（●なな、『む』ニジュウ）というかジカンがそのコタイについてはながれない。だから、あるテイドのキオンのたかさがあれば、ニンゲンは（いきられる）うごける、つまり「エル」であるが、きびしいジョウケンでは「エル」にはならない。

ニンゲンのイッシュヨウをかりに「エル」とすると、そのナイヨウは、ニジュウヨン（ジカン）かけるサンビャクロクジュウゴ（ニチ）かけるハチジュウ（ネン）になる。ケイサンすると、ナナジュウマンハツピャクである。

このスウジを、ウンドウのおそいジョウケンでかんがえてみる。たとえば、ハチわりのはやさだったら（さむいところなどで）、「エル」はドウイツジョウケンとしてかわらない（ウンドウのソウリヨウはかわらない）が、ソウリヨウがナナジュウマンハツピャクとしても、そのウンドウ（ソウリヨウ）をカンリヨウするのに、ハチジュウナナマンロクセン（ヒャクサイ）かかることになる。つまり、テイオンでセイゾンしたほうが、ウンドウのソウリヨウはかわらないとしても、ニジュウサイながくいきられるカノウセイがある。つまり、さむいくにのホウが、ながくいきられるということである（ジッサイ、みなみのくにより、キタのくにのホウがながいきである。）。

キュウ、『む』ハチジュウハチ

ビーダマをなにかのまわりでシュウカイ（まわる）させようとする、タイヘンなエネルギーがヒツヨウであろう。デンキでうごくくるまをつけてまわすではいけない。そのものをまわすのだ。チエシャならもっといいアンをかんがえるかもしれないが、タブンセンタクキのようなところにいれてしまえば、まわりつづけることができるだろう。それだってケッコウなエネルギーだが。つまり、あるクウイキがまわっているというかんがえかたをすれば、チキュウのコウテン（レヴォリューション）をセツメイできる（チキュウが「まわっている」のではなくて、クウイキが「まわる」とかんがえる。これがわたしのチョシ『アルカラカンガエル』でとなえたクウカイロンである。ダイニテンドウセツといえるかもしれない。●よん、『ア』ヒャクロクジュウサン）。このばあい、「センタクキのカイテンリョク」、もっといえば、「モーターのカイテンリョク」がわたしのいう「うずまきリョク」である。チドウセツ（ビーダマはうごく）、テンドウセツ（クウイキがうごく）でもある。

チキュウがコウテンするのはセツメイできるが、「うずまきリョク」とはなにかというのがまだセツメイできていない。タイヨウがそれほどのエネルギーをもつのかというのは、ビーダマをまわすジッケンをすればわかるが、ソウトウなエネルギーだともう。

ジュウ、『む』ヒャクロクジュウサン

「みずはジュンカンする」などという。タンジュンにいえば、チジョウのみずがジョウハツして、あめになってふるというものである。たしかにフロにはいっているとみずがジョウハツしたのか テンメンにしずくができる。しかし、なぜそうなるのか。ショウガッコウでは、みずはヒャクドシーでジョウハツするとおそわった。ヒャクドシーでキカするというわけである。ジッサイにフットウさせて、オンドケイではかったおぼえがある。

だが、フロのゆはヒャクドシーにカネツするわけではない。せいぜいヨンジュウゴドシーだ。うみやいけのみずだってそうだ。ヒャクドシーにカネツされるわけではない。なのになぜジョウハツするか。ひとつのかんがえかたは、 Netzが ブブンテキにヒャクドシーにタツして、みずがジョウハツするというかんがえかただ。もし、そのように Netzが イッカシヨにあつまるのなら、そのブブンでないみずは Netzをうばわれてニジュウドシーとかに（もとのスイオンがサンジュウドシーだったとする）なるのではないか。もうひとつのかんがえかたは、ヒャクドシーでみずはキタイにかわるというのは うそ（うそというかヒャクドシーでキカがカンリョウするということころだろう。ヒャクドシーでもジョウハツするとか。）で、ジョウオンでも みずはキカするというものである。

たしかにヒャクドシーでジョウハツする。だが サンジュウドシーでもジョウハツするとかんがえる。どうということかという、みずは キオンよりオンドがたかければ、ジョウハツするし、キオンより オンドがたかくなければジョウハツしない となる。これなら、なぜホッキョクのホウでゆきがふるのかをセツメイできる。なぜゆきがふるか。それは、ふゆにゆきがふるチイキでは、キオンよりスイオンのホウがたかいことがおおいのだ。だから、みずがジョウハツして、サイドひやされてゆきがふるということだ。みずのジョウハツがヒャクドシーでおこるとかんがえていたら ゆきがふることをセツメイできない。

ジュウイチ、『よろこぶゲンシジン（イカ、「よ」）』ジュウゴ

「ジカン」とはなにかというといには、あるブツタイがあるキヨリをイドウするのにかかるまだとこたえられる（●イチ、『ア』ヒャクジュウゴ、ハチ、『む』サンジュウヨン）。それで、テンタイのイドウをカンサツして、「ネン」、「ゲツ」、「ニチ」、「ジ」、「フン」、「ビョウ」とはかれるようにしている。あまりテンタイをみないひとは、とけいのうごきのホウがわかりやすいかもしれない。「フンシン」がうごいたら、それがうごくまえより「ジカン」がおおきくなっていると。

「もの」がイドウするばあいには「ジカン」というガイネンでかぞえることはカノウだというのにタイテイギはないだろう。しかし、それが「ジョウホウ」だったらどうか。あるデンシブンシヨがベツなどところにおくられるのに、それを「ジカン」がかかるといえるのか。

いまのジョウホウギジュツではチキュウナイであれば、ほぼすぐさまおくられるのである。むしろサイキンは「ラグ」などという。そういえばむかしはチキュウのうらからのジョウホウが、キタイされているよりおくれることがあった。なぜおくれるか、デンキの

ながれにムダがあったり、ほそいケーブルでつないでいたりしたために、「ジウタイ」のようになっていたのだろう。それをおもいだすと、「ジウホウ（もっといってデンキになってしまうが）」のイドウもやはり「ジカン」がかかるといえそうである。

もし、イドウにカンしてまったく「ジカン」がかからないでカンリョウするなら、もうイドウするジュンジョで（もっともはかりづらいたろうが）ケイソクするしかない。トシにいるひとのコウドウをジュンジョづけてハイクするのににている。そんなかんじではほとんど「とき」というガインがむずかしくなる。それでも「とき」をセイリツさせようとすれば、なにかのブツタイやジウホウをどこかにイドウさせて（ゼンテイではすぐいって「ドウジ」についてしまうのだが）わずかなずれをさがして、「ジカン」や「とき」にするのだろうか。もっといって、ドウジにつかないジウケンをさがすだろう（たとえば、かがみをタイリョウにつかって、あたたかもチョウキョリをイドウさせたかのようなやりかたで）。そうしないと「とき」だとか「ジュンジョ」がむずかしくなるのである。

かりにそういう「とき」のない（すべてイッシュンですんでしまう）カンキョウができれば、ニンゲンはブッシツのイドウがイッキにすすみ、あつというまにしんでしまうかもしれないし、ブッシツのイドウをいつでもできるからと、うごかすことをせず、いつまでもいきるかもしれない（いまのところ「シ」はコクフクされていないので、ゼンシャかとはおもうが【ヨダンだが、ひとりのニンゲンがしぬまえに、そのひとのサイボウをセッシュレバイヨウしてそだてれば、とりあえずまだいきていることにもなる。モンダイはジウホウのイテンだ【ジウホウをイテンしないとなまえすらわからない。】。）。ニンゲンのジュミョウはハチジュッサイがセンシンコクではヘイキンテキだが、ブッシツのイドウがはやくなると、あつというまにしんでしまうということだ。「シ」までのショリがシュンジにおこなわれるからだ。タンジュンに言えば、ジカンリョコウをするのは、なまけものじゃないと（すぐにしんでしまうから）たえられないのではないかということ。そういうわたしもよくねるなまけものである。タブンねなかったらしんでしまう。ドウジにイドウできるなにかは「ある」が、それはしんでしまっていると、またなまけものは「うごかない」。「デッド」か「セキゾウ（モノ）」がジソウはできないものの、かつてジソウしていたかもしれないなにかだろうか。ソクドがサイコウの「ドウジ」にトウタツする「ブツタイ」はあるかもしれないが、「あつた」のホウがテキセツかもしれない。そのブツタイは「しんでしまう」ゆえにみつからない（「シタイ」はあるだろうが）。たとえば、なにかのおきものがそうかもしれない。おきものになるまえはイドウしていたと。

「シタイ」や「セキゾウ」からもういちど、サイコウのソクドをもブツタイにすることはむずかしいであろう。ただジンルイは「ひかる」ワクセイをつくりだしているからフシギだ。ニンゲンがつくる「セキゾウ」もキョウミぶかい。ゲンリョウからジンコウテキにつくられたものだが、それにもソクドをつけたりする。バイクやロケットである。しかし、「シタイ」にソクドをつけているようなきがする。

ジウニ、『よ』ニジウイチ

「タイムマシン」というのはよくワダイにだされるはなしである。タブン「できない」けどあったらおもしろいものとかんがえられているだろう。たしかに「ジカンリョコウ」はむずかしい。しかし、のぞくことならできそうである。タンジュンにいうと、チキウウからイチコウネンはなれたところにかがみをおく。そうするとチキウウのあるイチニチのえ（えというよりドウガだろう）がイチネンかけてそのかがみにトウタツし、ここではねかえった「え」がイチネンかけてチキウウにもどる。つまりどういうことかという、ニネンまえの「え」がみられるのである。

くわしくみるにはクフウがヒツヨウだろうが、まあかがみをおくイチをかえれば、もっとちかいカコやおいカコもみられるようになる。もっともすでにかがみがセツチされていれば、そのキョリかけるニのブンのカコがみられる。そういう「え」をだれかがみているとすると、ものごとのカイゼンがすぐにすすむのだろう。もっともその「え」のみかたによっては「カコ」でセイカツすることもカノウかもしれない。ただしくいうとスウネンおくれの「カコ」である。

ジュウサン、『よ』ニジュウロク

「ウチュウ」はウンドウタイであろう。チキウウもまわっているし（カクニンしたわけではないが）いろいろごいている。しかし、「ウチュウ」のそとはどうか（わたしはかつて「か」となづけた。）。「ウチュウ」がウンドウタイだとすると、「ウチュウ」のそとはセイシタイではないか。アンガイ、「ウチュウ」のそとのむこうに、またウンドウタイがあるかもしれない。そうかんがえると、「ウチュウ」なんてキョジンのいへのセンタクキミたいなものかもしれない。

ジュウよん、『よ』ニジュウハチ

「ジカン」を「ジカン」たらしめているのはなにか。「ジカン」をロコモティブ（エル）ではかるとまえにかいた（●ハチ、『む』サンジュウヨン、ジュウイチ、『よ』ジュウゴ）。ではなにがロコモート（イドウ）させるのか。

ニンゲンやドウブツはチキウウジョウではそれなりにうまくあるけるが、ウチュウではうまくあるけな。あるくというよりおよぐだろうが、それはおそろしくクツウなようにおもう。なんらかのスイシンソウチがあったホウがカイテキだろう。

そのスイシンソウチについてかんがえると、「おもさ」でうごけるキョリがかわってくる。ネンリョウはイッテイとする。つまり「ジカン」とは「おもさ」によってきめられるメンがあるということだ。わたしはイゼンに「ジカン」のシツリョウのことをタイミックとなづけた。ここでのギロンもコウギのタイミックについてだ。おもさをロコモートさせるにはネンリョウ（エネルギー）がヒツヨウである。おもさブンのエネルギー（ここではマサツなどのこまかいジョウケンをはぶく。）がすすむことのできるキョリになる。

つまりジカンである（チキウのコウテンでイチネンをはかっている。）。

ただし、エネルギーがあっても、かならずしもすすむことにハツドウしているわけではないとおもわれる。つまり、すすめるのにすすまないということだ。それがセイタイのむずかしさだとおもう。おなじエネルギーリョウなら、シツリョウのちいさいホウがよりジカンをもつ。ジカンとシツリョウをかけるとエネルギー（そのキョリをロコモートするのにヒツヨウなエネルギー）がでる。それをタイミックというかはベツとして。

ジュウゴ、『よ』サンジュウニ

さきにエル（ロコモータイブ [ウンドウリョク]）イコールダブリュ（おもさ）ブンのイー（エネルギー）のはなしをした（●ジュウよん、『よ』ニジュウハチ）。

これはわたしのばあい、エルをジカンともかんがえるから、ジカン イコールダブリュブンのイーともいえる（なぜティ [タイム] にしないかという、かならずしもながれるわけではないからだ。ティシしたら、タイムというのかわからないので。）。

しかし、どうやってそれがうごくかまではセツメイできない。うごかなかったらエルとはいえない。だから、「ジカン」についていうときはただしいかもしれないが、うごくをネットウにおくとジャッカントイセイがヒツヨウである。

うごくとはなにか。それはニンゲンのばあい、あるシツリョウをへらしてドウリョクにかえることである。グタイテキにはタンスイカブツやサンソをサイボウがドウリョクにかえることだ。かえたあとのものをコキウやベンによりハイシュツする。サンソをとりいれ、ニサンカタソをだす。タンジュンなブンシキゴウのヒカクではだすホウがシー（カーボン）のブンおおい。つまりそうやってドウリョク（サイボウタンタイをふくみ）をえるためにシツリョウ（シー）をへらしている。モチロンたべることをするのでシツリョウはまたゾウカする。しかし、ウンドウメンにかぎっていえば、シツリョウはゲンショウする。ロケットのばあいはうごくたびにネンリョウをショウヒする。だからつかったネンリョウのブン、シツリョウはへる。そうやってウンドウをカイシするにはシツリョウがイチジテキにせよへるのである。

ジュウロク、『よ』ゴジュウニ

わたしがガクセイのころ、ウチュウのモシキズをみたことがある。それにはウチュウがまるくえがかれていなかったが、わたしはまるいのではないかとおもう（キウがた）。コロッケのようなかたちだとしたら、ジョウゲからなにかちからがかかっているとそうはならない。しかし、そのアツリョクとはなにかとおもう。かべでもあるのだろう

か。すくなくともケンキュウシャのあたまのなかにはある。

ジュウなな、『よ』ヒャクなな

ニンゲンのななわりはみずでできているという。それをエキタイとしてホジしている。チョウドそういうオンドでくらしているからだ。だからもっとあついところ、たとえばスイセイにいけば、ほぼジョウハツしてしまうし、さむいところ、たとえばドセイにいけばほぼかたまってしまう。だからそういうところでいきるには、みずイガイのなかみがヒツヨウだろう。たとえば、タイヨウのちかくならキンゾクだ。キンゾクがエキタイになってからだをジュンカンできるだろう。ギャクにタイヨウからとおいところではチッソのようななかみがいいだろう。やはりエキタイになってジュンカンできる。コキュウもかんがえると、あついところではスイジョウキをつかい、さむいところではニサンカタンソなどをつかう。このようにかんがえると、ウチュウジン、キンゾクでできたり、チッソでできたりするだろう。みずでできたニンゲンはとりあえずできているが、ほかはどうかわからない。

ジュウハチ、『よ』ヒャクゴジュウヨン

サンビャクニジュッサイまでいきるハウハウがみつかった。ちよっとうさんくさいからヒャクロクジュッサイにしておこう。ヒャクロクジュッサイとはどういうことか。レイサイからヒャクロクジュッサイまでのみちのりがあるくのににている。つまりヒャクロクジュッサイブンうごくわけだ。もちろんサイボウなんかがうごくはやさをかえられるわけではない。

「ジカン かける はやさが みちのり」

という。ジカンやはやさがニバイになれば、ニバイのみちのりをすすむことができる。だからバイソクでうごければ、ニバイいきるようになる。それがコウリツカにもつかわれる。ここでの「コウリツカ」とはキギョウカツドウのである。だからガッコウでは「はやく」とせかされる。はやくできるハウがほめられる。しごとがはやければ、チンギンをすくなくしたり、しごとリョウをふやしたりできる。それはケイエイヤにあってわるくない。だから、ガッコウにニバイソクコースをつくれればよい。と『アルカラカンガエル』でいった。

しかし、ソクドだけではない。ジカンをニバイにしてもニバイのみちのりがある。そのジカンとはなにか。ツウジョウはチキュウがイッカイまわってイチニチである。そのイチニチをバイにできるかという、それはむずかしい。とけいのニジュウヨジカンのあいだにニカイまわるといふことだからだ。それはいってみると、ガイブのモンダイ

だ。シゼンカガクテキなモンダイだ。ではそうでない「ジカン」とはなにか。ジブンがイシキするまでである。それをもっとこまかくすれば、どういうことかという、コウツウジコのシュンカンにゆっくりものがうごくように見えるというぐあいである。イチビヨウのあいだにニビヨウブンのこまかさをもてばいいのである。コンピュータでいえば、サンプリングをニバイすればいいということだ。ベツにそれはいそぐわけではない。ただニビヨウブンのしごとができそうというはなしである。

それができればツウジョウハチジュサイまでいけるところを、ヒャクロクジュッサイブンいぎることができるだろう。ちなみにサンビャクニジュッキロのはやさですすむくるまがあっても、それだとヒャクロクジュッキロにかんじてしまうが、それでおそいとおもうなら、ロツピャクヨンジュッキロでくるまをつくれればいい。

ジュウキュウ、『よ』ヒャクロクジュウニ

むしがわたしのコップのなかにはいていた。キュウシュツしてみたが、どうもフッカツするきざしがない。スイシ、イチである。なぜ、むしがコップのなかにはいるか。ニンゲンをみればわかる。きもちいいだろうとおもって、かわやプールにはいるのである。むしだってそうなのだろう。しかし、ときにジコがおこる。ニンゲンだっておぼれるのだ。むしにしたってそうなのだろう。このなつはヨンケンぐらいキュウシュツした。ザンネンながら、イッケンをのぞいて「デキシ」である。

ニジュウ、『よ』ヒャクハチジュウヨン

なぜタイヨウのまわりをワクセイがまわるか。それは、コウセイをチュウシンにまるでうずをまくようなちからがはたらいているからだろう。わたしはそれをうずまきリョクとよぶ（●よん、『ア』ヒャクロクジュウサン、キュウ、『む』ハチジュウハチ）。

そして、コウセイがもえさからなくなったらどうなるか。まず、コウセイからはなたれるブッシツ（たとえばスイソなど。「ひかり」といったホウがわかりやすいかもしれない。）がはなたれなくなる。すると、そのブッシツによってたもたれていたコウセイとワクセイとのキヨリがちぢまる。ニホンのウチュウケンキュウキカンがセイゾウしたエンジンのゲンリをかんがえれば、「ひかり」で、なにかものをスイシンさせたりすることはカノウということがわかるだろう。そしてやがてコウセイにのまれてしまう（それをブラックホールというようだが。）。

そのあとどうなるか。もし、あるケイトウをカイリョウしたホウがいいとなると、これはシュギ、シュチョウがわかるだろうが、それまではなっていたエネルギー、ブッシツをすべてカイシュウして（うずまきリョクをつかえばカノウだ。）またもえるではないか。むかしのオウベイジンだろうか、しぬことを「テンにめされる。」といった。これはどういうことか。これは、コウセイのもとへいってネンリョウになるということではないか。そうすれば、のこされたひとたちには、ヘイワが（いつもどおり）ケイショウされ

るのである。

アングアイ、「カガク」がハッテンしたというゲンダイのホウがそういうメンににぶいかもしれない。でも、「リセット」されそうになったら、タイヨウケイのそとにげるというのもわかるはなしだ。ウチュウセンでベツのケイトウににげれば、あるワクセイでハッタツした「ニンゲン」もいきのびるだろう。だが、それをダイダイテキにやったケツカ、「ニンゲン」がハッセイしたケイトウが「サイセイフノウ」になるのは、ただしいかというとむずかしい。たしかにセツカク、シンカしたのだからである。でも、そういうリセットはたびたびおこっているようにおもわれる。だから「ウチュウ」がひろがっているというのは、みているわたしたちのセイゾンへのキボウがひろがっているだけのこともしれない。ウチュウもやはり、ブッシツをカイシュウしようとするわけだろうから。

ニジュウイチ、『オンガクイチエンのジダイ（イカ、「オ」）』よん

エーからビーにすすむのに、イチビヨウかかれば、イチビヨウカンかかったという。くるまにしても、くるまでもヒコーキでもイドウするにはジカンがかかる。くるまにしても、ヒコーキにしても、ニンゲンがつくりだしたものである。それはチキュウジョウでソクドのはやいブルイだろう。いまのところイチバンはやいとされているのが「ひかり」である。これはニンゲンがつくりだせるか。たしかにデントウはつくったようだ。

ところで、イドウにはエネルギーがヒツヨウである。くるまならガソリン、ヒコーキならジェットネンリヨウである。それはどうショウヒされるか。おおきなものをうごかすと、よりおおきなエネルギーをヒツヨウとする。ちいさなものならすくなくすむ。それからなにかいえないか。そう、「ひかり」よりもちいさなブッシツをつくれれば、ひかりよりはやくイドウできるだろう。これを「こまびかり」といおう。なんのやくにたつかはわからないが、チキュウジョウのリヨウだけでも、ジョウホウがはやくうごくようになるわけだから、セイサンセイがあがるだろう。

ニジュウニ、『オ』ゴ

わたしがまえにかいたホン『よろこぶゲンシジン』に、わたしがかんがえたジカンリョコウ（タイムトラベル）のゲンリをかいた（●ジュウニ、『よ』ニジュウイチ）。ゲンリだけでなく、セツケイもカンタンだが、セツチがむずかしい。コンカイはそのカイゼンバンについてかく。

カンタンにいえば、イチネンマエをみるために、ハンコウネンさきに（オウフクでイチネン）かがみをおくのでなく、チキュウジョウにかがみをおくのだ。そのかがみは、イチネンまえのひかりがみえるように、タイリョウのかがみによるハンシャをくりかえして、イチネンブンイドウするようにハイチする。これでイチネンまえがみえるわけだ。ただ、カコのひかりとゲンダイのひかりでコンランしないように、カコのひかりはしろくろにするなどのショリをしたホウがいいとおもう。

ニジュウサン、『オ』ハチ

セツチョで、ジカンとはエネルギーわるシツリョウといった（●ジュウよん、『よ』、ニジュウハチ）。

もっとタンジュンにいえば、エネルギーわるシツリョウがコウゾクキョリである。それをセイリするとシツリョウがはじきだせる。そんなことをしなくてもはかりではかればシツリョウはだせるだろうが、それでだせるのは、チキュウジョウでのおもきである。つきでそのはかりをつかってはかれば、スウジがかわってくる。

シツリョウはエネルギーわるジカンである。

エネルギーがおおきくても、ジカンがレイ（ジリキでうごけないといえよいだろう。）ならばシツリョウもレイになる。これはどういうことか、あなたのいえのジシヨはジリキでうごけないから、シツリョウがレイということになる。おもきはあるじゃないかだが、ウチュウにおいておけば、なにかちからをくわえないかぎり、うえにもよこにもうごかないということだろう（コウセイからのうずまきリョク [インリョク、●よん、『ア』ヒャクロクジュウサン、キュウ、『む』ハチジュウハチ、ニジュウ、『よ』ヒャクハチジュウヨン] でひっぱられるとおもうが。）。しかし、チキュウがうごいているために（このレイでいえばエンジンだ。）ジカンがレイではない。そのためにシツリョウがあるとなる。おもしろいのが、ジカンがレイかレイでないかである。フツウ、ニンゲンが「モノ」というモノは、ジリキでうごけないから、シツリョウはレイである。しかし、セイタイだと、レイイジョウになる（たとえば、チキュウジョウであしをつかってうごくだろう。ウチュウでは、てあしをうごかしてもすすめないかもしれない。）そうやって、セイタイとモノをハンベツできる。モノでもロボットはうごくから、シツリョウがレイイジョウになる。だから、ランボウないかたをすると、ロボットはセイタイといえるかもしれない。だから、ロコモティブ（うごき）をはかっても、シツリョウをはかってもセイタイかどうかはソクテイできるのである。

わたしがギロンする「タイミック（●ジュウよん、『よ』ニジュウハチ）」は

ジカン（ティ）イコール ティイチ わる ティシー（タイミック）

のティシーである。

つまり、ジカンにまつわるシツリョウ（イドウにかんするシツリョウ。たとえば、つきのインリョクなど。）をわりだせば、ゼツタイテキナジカン（イドウのイッテイセイ [キョリ]）がはじきだせるというものだ。タンジュンにいえば、ウチュウヒョウジュンジがで

きるというわけだ。

ただ、ジカン イコール ゼツタイジカン かけるティシー（ジカンケイスウ）のシキはインリョクがレイになると、レイになってしまう。

そんなことはありうるかであるが、ウチュウのなかではそういうジョウケンはないとおもわれる（ヨダンだが、たとえばみつつのコウセイのまんなかに、ハイチされるなにかがあったばあいには、ジカンがレイになることはあるかもしれない。これをわたしはデッドロックとよぶ）。だからこれでいいとかんがえている。わたしは、ウチュウはサイセイ（リサイクル）されたホウが（いまやるということでない。）いいとおもっているの、そうかんがえる。

このセツはカイテイしました。イカ、ゲンブン。

ニジュウサン、『オ』ハチ

ゼンチョで、ジカンとはエネルギーわるシツリョウといった（●『よ』、ニジュウハチ）。

もっとタンジュンにいえば、エネルギーわるシツリョウがコウゾクキヨリである。それをセイリするとシツリョウがはじきだせる。そんなことをしなくてもはかりではかればシツリョウはだせるだろうが、それでだせるのは、チキウジョウでのおもさである。つきでそのはかりをつかってはかれば、スウジがかわってくる。

シツリョウはエネルギーわるジカンである。エネルギーがおおきくても、ジカンがレイ（ジリキでうごけないといえればよいだろう。）ならばシツリョウもレイになる。これはどういうことか、あなたのいえのジシヨはジリキでうごけないから、シツリョウがレイということになる。おもさはあるじゃないかだが、ウチュウにおいておけば、なにかちからをくわえないかぎり、うえにもよこにもうごかないということだろう（コウセイからのうずまきリョク [インリョク、●『アルクカラカンガエル』、イカ、『ア』、ヒャクロクジュウサン、ニヒャクサンジュウ、『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』、イカ、『む』、ハチジュウハチ、『よ』ヒャクハチジュウヨン] でひっぱりられるとおもうが。）。しかし、チキウがうごいているために（このレイでいえばエンジンだ。）ジカンがレイではない。そのためにシツリョウがあるとなる。

おもしろいのが、ジカンがレイかレイでないかである。フツウ、ニンゲンが「モノ」というモノは、ジリキでうごけないから、シツリョウはレイである。しかし、セイタイだと、レイイジョウになる（たとえば、チキウジョウであしをつかってうごくだろう。ウチュウでは、てあしをうごかしてもすすめないかもしれない。）そうやって、セイタイとモノをハンベツできる。モノでもロボットはうごくから、シツリョウがレイイジョウになる。だから、ランボウないかたをすると、ロボットはセイタイといえるかもしれない。だから、ロコモーター（うごき）をはかっても、シツリョウをはかってもセイタイかどうかはソクテイできるのである。

わたしがギロンする「タイミック (●『よ』ニジュウハチ)」は

ジカン (ティ) イコール ティイチ ワル ティシー (タイミック)

のティシーである。つまり、ジカンにまつわるシツリョウ (イドウにかんするシツリョウ。たとえば、つきのインリョクなど。) をわりだせば、ゼツタイテキなジカン (イドウのイッテイセイ [キヨリ]) がはじきだせるというものだ。タンジュンにいえば、ウチュウヒョウジュンジができるというわけだ。

ただ、ジカン イコール ゼツタイジカン わるインリョクのシキはインリョクがレイになると、レイになってしまう。そんなことはありうるかであるが、ウチュウのなかではそういうジョウケンはないとおもわれる (ヨダンだが、たとえばみつつのコウセイのまんなかに、ハイチされるなにかがあったばあいに、ジカンがレイになることはあるかもしれない。これをわたしはデッドロックとよぶ)。だからこれでいいとかんがえている。わたしは、ウチュウはサイセイ (リサイクル) されたホウが (いまやるということでない。) いいとおもっているのだから、そうかんがえる。

ニジュウよん、『オ』ニジュウよん

なぜテンにめされるといういいかたをするか。それはウチュウをサイセイサンしたホウがいいからである (と、わたしはかんがえる)。どういうことか。ウチュウはひろがりつづけているという。ベツにそんなおおきくかんがえなくてもいい。タイヨウのもっているすべてのシザイをホウシュツしてしまったらどうなるか (ひかりもシザイである)。タイヨウはもえなくなり、タブン「ブラックホール」になるだろう。そしてもともとのシゲンはおおきにいつてしまっている。またもえるのをサイカイさせようとおもったらどうか。またシザイをあつめるしかない。だから、ブラックホールはいろいろとすいこむといわれるのではないか。またシザイがあつまれば、またもえることができるのだ。つまり、ニンゲンなんかはテンにめされたホウがよいのだ (あなたがタイヨウケイのながつづきをキボウするのならだが)。そうすればタイヨウはながくつづく。テンにめされてもいいし、リンネテンセイでもいいのである。

ニジュウゴ、『オ』サンジュウキュウ

ウチュウはどんなかたちか。わたしがガクセイのころ、とつがたのズをみたことがある。ひらべったいが、チュウシンフキンはでっばっているえである。しかしホントウにそうなのか。わたしはいまのところ、たしかめようもないが、キュウケイをカテイしている (カッテカガクをやっています)。なにかちからがかかからないと、ヘンペイにはならないからだ。えにかいたひと、もしくはそのかたちをテイショウしたひとは、なにかちからがかかっているとカテイしているのだろう。ジッサイにそうになっているかはともかく、す

くなくとも、かれらのシンリコウゾウのなかではそうなのだろう。イッタイどんなちからがかかっているのだろうか。

ニジュウロク、『オ』ゴジュウニ

「うまれかわり」などという。「ゼンセイはなんだったか。」というはなしも、わたしがこどものころにきいたことがある。それはイデンのはなしではない。マテリアルのはなしである。

エーさんというひとがいたとして、そのエーさんのイチブは、もと うしや、もとホウレンソウでできていることは、ヨウイにソウゾウできる。わたしも（このいいかたがテキトウかはわからない。「わたし」は、ジョウホウであるカノウセイがあるからだ。）、そういうぐあいである。わたしがしんだら、タブン、カソウされて、ほねとキタイとかすかのこるんだろう。そこからどうリサイクルされるか、なんかのドウブツ、ショクブツのかてになるかはわからない。ほねは、はかなどでホゴされるだろうし、キタイはふたたびリクチにおいてこなければわからないし、かすはカソウジョウのゴミとしてショリされるのだろう。

こういうかんじでは、「うまれかわり」はゼツボウテキだ。わたしはドソウができないのなら、サンコツとかジュモクソウにしてもらいたいかもしれない。サンコツやジュモクソウなら、ショクブツにほねがキュウシュウされて、それがドウブツにたべられてという「うまれかわり」がセイリツする。わたしをかりにマスター（シソ）としたら、そのイチブたちがうまれかわりをするわけだ。その「イチブ」をワンスルーということにする。ワンスルーがうまれかわりをするということは、もののリサイクルである。だからそうするばあいは「ライセイ」のはなしにもなる。

くさからドウブツ、そしてニンゲンになればたいしたものだ。そういうわたしもカコのどれかのワンスルーがふくまれているかもしれない。ヨウするに、ゼンセイのゼンセイがニンゲンだったかもしれないのだ（ゼンセイはショクブツかドウブツがほとんどだろう。たまにキンルイとかコンチュウもあるかもしれない（きのこ、いなごなど）。

だからゼンセイをさかのぼっていくと、やっぱりマスターにいきつくだろう。ニンゲンのマスターのことをセイショではゲンキュウする。そこからまえのはなしになると、どうもたちがわかれるようだ（かみがつくったとか、シンカしたとか）。マスターヒューマンのゼンセイはどうだったか。やっぱりくさとかドウブツだったとかかんがえるのがシンゼンでないか。イデンシをしらべればわかるといたって、サイボウのフクセイギジュツはジョウホウである。ものがなければフクセイはできない。もののありかたにオウじて、ギジュツがハッテンしたのではというきがする。

だから、くさとドウブツのブンシをしらべれば、かこにあったもの、シンカするまえのくさ、ドウブツのすがたがソウゾウできるのではないかとおもう。しかし、くさ、ドウブツ、プリヒューマン、ヒューマンというジュンカンはそれほどかわらないとおもう。だが、セッキ、テッキをハッタツさせるまえの「プリ」ヒューマンはドウブツのセッシュがすくなかったようにおもう。だからゲンシテキなヒューマンは、くさ、プリヒューマ

ンというジュンカンだっただろう。「はか」をハッタツさせるまえだったら、くさ、「プリ」ヒューマン、ドウブツだっただろう。つまりドウブツのホウが、カイソウがたかいのだ。それをマイソウギジュツのハッテン（はじめのうちは、ユウリョクシャだけだっただろう。）により、「プリ」ヒューマンがカイソウをあげた（もはやヒューマンかもしれない）。セッキのハッタツもジュウヨウだが、それでもやっぱりドウブツのホウがうえとなる。もっとまえになると、ショクブツよりカイソウがひくかったかもしれない。つまり、うごけないプリプリヒューマンである。ショクブツ（こけのような）にキセイされるようなプリプリヒューマンである。

プリプリヒューマンのまえはわからないが。さるからハッテンしたといわれたりもするが、ホントウのところはわからない。さるはさるでのこっていわけだから。イデンシがにているといってもそれはショクリョウのキンジであろう。それともコンゴ、ポストヒューマンをみとめるのだろうか。ポストヒューマンをみとめるとしたら、シンカのズシキにあるようなえだわかれもカノウだろう。まあ、ブゾクあらそいなんかしてもしょうがないのだが。

ひとついえるのは、セイショがかかれたのは、はかがハッタツしたあとだろう。それかドウジキだったかもしれない。だから、「ニンゲンがチキウをシハイ」なのだ。エジプトおうのコウセキがおおきいだろう。あんなおおきなはかをつくったのだから。そのまえはほかのドウブツがチョウテンだった。もしヨゲンシャがジュウヨウなもののハッテンのときにあらわれるのならば、セッキをつくったときにもあらわれるはずだ。ただそれをキロクするものがなかったかもしれない。ただ、はかとドウヨウにフキウしただろう。ただ、ニホンにはイッパンテキに「サイゴのシンパン」のかんがえがないので、もやしてしまうのだろう。リンネテンセイのホウがいいとおもうのだが。

ニジュウシチ、『オ』ゴジュウなな

さきにはなした「ゼンセイ」のはなし（●ニジュウロク、『オ』ゴジュウニ）は、もののはなしである。イデンシによってサイボウがフクセイされるといのは、どちらかというとももののはなしではない。「もの」はほかにヒツヨウだからだ。だから、ジョウホウとかギジュツであろう。サイキンは「ゼンセイ」のはなしをあまりしなくなった。むかしはだれかがしているのをきいたものだ。「オカルト」とかそっちのホウのあつかいになっているかもしれない。そういうわたしも、そのてのはなしは、すきではなかった。ヒカガクテキなはなしのようにおもっていた。

しかし、よくかんがえてみると、「もの」のはなしである（ニンゲンのからだをコウセイするブッシツの）。だからそれはたしかなのである。ただそれがどこからどこにいったといったはなしは、タイテイオクソクだからウサンくさい。そういうことである。ジョウホウにはいいカゲンなそれがある。ただそれだけだ。

ところが、サイキンそのはなしをしない。どうもイデンのホウが、セットクリョクがあるのだろう。ガッコウでもおそわる。しかし、それがどのザイリョウをつかってカノウになるかはあまりいわない。セツメイはカノウだろうが、そういうもののはなしはしな

い。そういうのを「ジョウホウカシャカイ」というのだろう。そのジョウホウをしったって、ものがなければくみたてられない。だからしょうがないといえしょうがないはなしなのである。そういうものぬきのはなしにどこまでたえられるか。オンガクもビデオもホンもデンシカ。もののないなにかである。むかしはジンリキでつくっていた。それをアートとよぶ。どこまでジョウホウカするのはわからないがアートをダイジにしたい。

ニジュウハチ、『オ』ゴジュウキュウ

ワンスルーのはなしをした（●ニジュウロク、『オ』ゴジュウニ）。マスターヒューマンのイチブだったそれには、マスターヒューマンのほかのイチブというキョウダイというかドウシというかがあるだろう。マスターヒューマンがしんでブンカイすると、そのタスウのワンスルーはカクサンする。そしてつぎのショクブツやドウブツのコウセイブツになるわけだ。センコワンスルーがあれば、センコのドウショクブツのコウセイブツになるかもしれない。そうすると、そのセンコのワンスルーのエンで、センコのドウショクブツはキョウダイといえるかもしれない。それがくりかえされると、シンセキがふえていく。そうかんがえると、カケイでなくて、ものとして、ケッコウなはずのひととキョウダイであるといえそうなのだ。それをニンシキできるかはわからないがそういうエンもありそうだ。

ニジュウキュウ、『オ』ロクジュウキュウ

「はか」がセイブツカイにおけるニンゲンのカイソウをあげたことをシテキした（●ゴジュウニ）。これはユウメイなのでエジプトおうのはかがある。こういったはかでもあれば、ほかのドウブツにシタイをたべられないわけだ。それからキュウヤクセイショができた。「ニンゲンがほかのドウブツをシハイする。」とかかかっている。こうかかされると、それをタッセイするために（ほかのドウブツにたべられるようじゃ、くらいがたかいとはいえない。）、はかをつくるだろう。だから、キリストキョウは、ほかのシュウキョウとよべるかもしれない。

それをヨーロッパではニセンネンほどつづけ、ジュウキュウセイキになってニーチェがでてきた。かれは、「かみはしんだ。」といい、サイセイをといた。ほかのなにかにサイセイされるということ。その「サイセイ」というのは、「リンネテンセイ」のようなはなしでないか。つまり、ニセンネンほどニンゲンがセイブツカイでサイジョウイとして、ほかのドウブツにたべられないようにしていたが、そうではなく、ニンゲンもリサイクルしたホウがいいということではないか。たしかにキリストキョウカイのセイリョクが、よわくなっているときく。しかし、マイソウについては、サンコツやウチュウソウなどでできたが、まだフツウのマイソウがおおいとおもわれる。たしかにリサイクルのシソウはひろまっているようだが、まだニンゲンのカイソウをおとすようなかんがえが、タスウにシジされにくいとおもわれる。そういうイミではまだ「かみ」はしんでいないの

である。ただ、このゴはどうであろう。

サンジュウ、『オ』ななジュウゴ

ウチュウのはじまりは「ビッグバン」でセツメイされることがある。バクハツだから、ウチュウはそとがわにむかってひろがっていく。そうすると、バクハツのチュウシンでは、ものというかシゲンというかはすくなくなるだろう。それでそとへむかってシゲンがイドウし、ウチュウはどうなるのか。

ここでいいたいのは、ウチュウのサイセイサンはどうなるのかということだ。そんなことするかといわれるかもしれないが、ながもちするといいたいだろう。タンジュンなコウセイのばあい、やがてもえきって、「ブラックホール」になるとおもわれる。それで、うそかホントかはわからないが、シゲンをよびもどすわけである。これならサイセイサンである。ウチュウジタイもやはりそうなのでないか。ムダにしないようなくみがあるじゃないかとおもう。ちいさなまるとドーナツがたのくりかえしでないか。

サンジュウイチ、『オ』ハチジュウイチ

ニホンでは、ひとがしんだあと、そのシタイをカソウする。そうすると、ほねだけがのこる。それをマイソウする。しかし、それはちょっとどうなのかもおもう。なぜはかにマイソウするかといったら、ひとつはさきへのべたように（●ニジュウロク、『オ』ゴジュウニ、ニジュウキュウ、『オ』ロクジュウキュウ）、ほかのドウブツにたべられないようにするためだといえる。これはキリストキョウケイのカチカンであろう。そうやってニンゲンのくらいをイジするのである。

しかし、「リンネテンセイ」だとか「サイセイ」また「リサイクル」というひともいる（●ニジュウキュウ、『オ』ロクジュウキュウ）。それだったらほかのドウブツにたべてもらったホウが、いのちのエイゾクセイがあるともいえる。つまり、あるひとがもっていたブッシツとしてのからだ（わたしはワンスルーといっている [●ニジュウロク、『オ』ゴジュウニ]。）が、ほかのドウブツ、ショクブツにひきつがれるのだ。だから、きみのライセイはたぬきか、などとはなしができる。

かならずしもキリストキョウのように、「ニンゲンがほかのドウブツをシハイしなければならぬ。」ではないから、そうやってリサイクルをすればいいようにもおもえる。たしかにテンにめされることも（●ニジュウよん、『オ』ニジュウよん）（セイブツではなくて）、もののメンでダイジかとはおもうがテキトウなバランスをみて、リサイクルをすればともおもう。カソウしてゼンメツさせなくてもおもう。「テン」にめされるとナンオクネンとシンカしたのをもうイッカイとなるし、「テン」にめされないひとも、「リサイクル」され、ゲンダイのセイメイのホゼンにひとカツヤクする。それでいいのではないか。

サンジュウニ、『オ』キュウジュウイチ

ガッキはなにかをシンドウさせておとをだす。そのギャクもある。おとがおおきいとなにかがシンドウしはじめる。そのシンドウでもおとがでる。しかし、あるシンドウがとまれば、やがておともやむ。そのおとによってシンドウしたなにかも、ふるえるのをやめる。そのまたおともやむ。チキュウジョウだと、シンドウはやがてとまるようだ。

レイガイテキにフィードバックというのがある。おととシンドウをジュンカンさせるわけである。これだといつまでもなっている。ひかりはどうだろうか。ひかりから「シンドウ」のようなあるイベントをハッセイさせて、それをループすることができれば、ウチュウはおわらないようなきがする。ひかりをサイド、(コウセイがもえつきそうになっている)ブラックホールにかえし、コウセイにもどすのである。

サンジュウサン、『オ』キュウジュウニ

ニンゲンエーがイーにイドウしてエフにイドウした。これはわかりやすいはなしだ。エーがはじめディにあって、イーにいてエフについたと。しかし、(たとえば)イッセンマンニンのひとがイッセイにエフをめざすといったときに、どれだけそれぞれのうごきがわかるだろうか(エフにちかづくことはわかるけれども)。それをセイリすると、ビーさんがイーにイドウした。シーさんがジーにイドウした。ダブリュさんがイーにイドウした。ほかタクサンとなる。ケツキョク、なにかのチツジョ、たとえばジカン、なまへのジュンジョなどをつかって、ひとりずつジュンジョづけていくのがわかるやりかただ。それをおこなってはじめて、そのレキシなどをえがけるようになる。いいカゲンなケイソクをすると、カンゼンなレキシとはよべなくなる。

しかし、これはコンキのいるサギョウだ。かならずチョクセンジョウにできごとがキジュツされるわけではない。たとえば、ハチジイップンゴビョウにシーさんがジーに、ワイさんがイーにトウチャクするとなると、どちらをさきにキジュツしたらいいかわからない。そこでどうするかがモンダイとなる。こういうカダイ、かりに「タヨウジョウケンのセツメイ」といっておく、をとくために、ふたつのセンをつかったりするのではないか。もしくはもっとこまかくジカンをはかる。そうすると、どちらがさきかがわかる。それならひとつのセンでつづけられる。

ひとつのセンにするというと、まるでゲンザイのカガクのようなこまかいケイソクがヒツヨウになるのだろう。つまり、それを(カガク)をやっているうちは、レキシはひとつでありそうなのである。「タヨウ」だからしょうがないのだが、それをキレイにセツメイしようとするドリョクは、いろいろなところでおこなわれている。

サンジュウよん、『オ』キュウジュウゴ

ニンゲンのリサイクル(テンにめされる。)のはなし、ウチュウのイジのはなしをした

(●ニジュウよん、『オ』ニジュウよん、サンジュウイチ、『オ』ハチジュウイチ)。そうするとながもちするわけだ。しかし、ジュウヨウなどもある。それは、セツカクできたニンゲンはどういきるかというはなしである。

そういう「ながもち」をかんがえなければ、カッテにいきて、カッテにしねばいいんじゃないかとなる。ばあいによってはウチュウがほろびても、ニンゲンだけがいきのこればいいというかもしれない。しかし、タブン、ニンゲンはウチュウのイッコシゲンなわけだから、そのシステムにハウシすべきともいえる。かといって、イツカイジンルイがほろびて、またあたらしくハッセイするようなことをくりかえすというのも、なんだかバカらしい気がする。もうナンカイもニンゲンはほろびたのかもしれない。はたしてニンゲンはどういきるべきか。メイワクかけないテイドにおもいおもいにいければいいのかな。

サンジュウゴ、『オ』キュウジュウなな

タヨウジョウケンのはなしをした(●サンジュウサン、『オ』キュウジュウニ)。タヨウジョウケンとは、いくつものインガをふくむセイリしづらいゲンショウなどである。そういうのをセイリしていくと、ハウソクがみつかるかもしれない。むかしのひとはカンタンなジョウケンからいくつものハウソクをみいだしていた。それをわかいひとはガッコウでまなぶ。カガクシャになるひとは、そういうモンダイにチョウセンするだろう。しかし、どうもサイキンはコンピューターだよりのきがする。トウケイデータをてケイサンすることもできるが、あまりそういうことをするひとはおおくないだろう。ケンキュウがコンピューターイゾンになっているということだ。それはアートではない(●ニジュウシチ、『オ』ゴジュウなな)。たしかにコンピューターのハツタツにより、よりフクザツなジョウケンでもセイリしやすくなっただろう。ただ、そんなかんじでケンキュウするなら、ケンキュウシャのなまえをかくところに、まるまるコンピューターなどと、ヘイキするといいかもしれない。ニンゲンがケンキュウしているのか、うたがわしいからだ。

サンジュウロク、『オ』ヒャクジュウなな

タイヨウはうずまきリョク(あたりのものをカイテンさせる)がある(●よん、『ア』ヒャクロクジュウサン、キュウ、『む』ハチジュウハチ、ニジュウ、『よ』ヒャクハチジュウヨン、ニジュウサン、『オ』ハチ)。だからチキュウがコウテンする。しかし、チキュウにもやはりうずまきリョクがある。つきがまわるからそういえる。うずまきリョクとはなんなのか。

わたしは、もえることのケツカだとおもう。タイヨウはもえている。チキュウもまたナイブではもえているとされる。たまにフンカするのがそれだ。よく、「とんでひにいるなつのむし」という。ひのあたりにいるむしが、ひのなかにはいつてしまうということばだ。このように、ニンゲンにはかんじづらいが、ひのハウにながれるうずがあるのではとお

もう。それならチキユウも、のまれちゃうではだが、ひかりなどのアツリヨクで、セッキンしないものとおもわれる。

サンジュウなな、『オ』ヒャクジュウハチ

タイヨウケイはやがてタイヨウがブラックホールカシ、いろいろブッシをひきよせてサイセイをはかる（●よん、『ア』ヒャクロクジュウサン、ニジュウ、『よ』ヒャクハチジュウヨン、ニジュウよん、『オ』ニジュウよん、サンジュウ、『オ』ななジュウゴ、サンジュウニ、『オ』キユウジュウイチ）。そうなるとチキユウにすむニンゲンもよばれるわけだが、おとなしくネンリヨウになるだけでよいのだろうか。

セツカクきずいたブンメイも、チキユウごとネンリヨウにされては、もはやつづかない。にげていきのびるにせよ、なにもないところからまたはじめなければならない。それでいきのびられるかはフメイだが、そうすることもできる。どこかケイトウガイのワクセイにふたりのニンゲンをおくりこむ。そのふたりがいきのこるかはわからないが、それはまるでセイショのはなしのようである。ふたりがいきのこれそうなところをさがして、おくりこむのもいいかもしれない。これがはじめてかはわからないが。

サンジュウハチ、『オ』ヒャクジュウキユウ

ひかりはなぜすすむか。なにかうごきだすきっかけがあるのだろう。また、そういうきっかけとはベツに、ひかりがイドウすることによる、ベツのもののイドウもおこっているのではないか。タンジュンにいえば、カイチュウをふねのドウタイがイドウして、みずがふねのシンコウホウコウとはギャクにイドウするというぐあいである。そうだとしたら、わたしたち、なのかだが、は、ひかりをえるとドウジに、なにかをうしなっていることになる。それがなんなのかわたしはいまのところわからない。

サンジュウキユウ、『オ』ヒャクよんジュウロク

「ロンリテキシコウ」などという。ゲンインからケツカまでをチョクセンテキにセツメイすることをそういったりするだろう。そうやって、タショウヘイレツはあるかもだが、ものごとをチョクセンテキにキジュツする。それはなぜか。ニンゲンはことばをドウジにフクスウつかえないからである。たとえば、「みかん」といいながら「コーヒー」ということはできない。だから、チョクセンテキにキジュツするホウホウをとる。ことばのセイシツからそうなるわけである。

しかし、よのなかはケツしてチョクセンだけでセイリツしているわけではない。エーさんがたまけりをしていて、ビーさんがさけをのんでいるなんてバメンもあるだろう。ことばとしては、どちらかがさきで、どちらかがあとにされるだろうが、それはドウジに

なされているし、ニンゲンもそれはドウジになされていることをニンシキする。だから、しかたがないのだが、エーさんがたまをけり、ビーさんがさけをのんでいるというセツメイがただしとはかぎらない。モチロン、ビーさんがさけをのんでいて、エーさんがたまけりをしているでもない。ニンゲンのことばのツゴウジョウ、そういういいかたをするだけであって、ベツにただしわけではない。

まえにタヨウジョウケンのはなしをしたが（●サンジュウサン、『オ』キュウジュウニ、サンジュウゴ、『オ』キュウジュウなな）、そういうはなしである。ことばジョウはどちらかがさきになるが、ゲンジツはヘイレツテキにうごいているのである。そして、ニンゲンも、チョクセンもリカイするが、ヘイレツもリカイする。だから、チョクセンテキなことばがただしとはかぎらないのである。というよりも、ことばのセイシツジョウ、ことばでセツメイするのはあやまりといえるかもしれない。それがわかっているからか、わたしはあまりおしゃべりではない。しずかにカンサツするのもすきである。

ことばにすると、イチリンのはながさいている。そしてもうイチリンもさいている。だが、ジュウリンのはながさいていることをみていたりする。チョクセンテキなシコウもきらいではないが、ヘイレツテキなプロセスもダイジなのではとおもう。しかし、ことばをつかうのだったら、チョクセンにならざるをえない。たぶん、そういうわけだから、ブンメイジンはチョクセンテキにかんがえたホウがいいだろう。

よんジュウ、『オ』ヒャクゴジュウロク

うずまきリョクがあるから、そのちかくのものは、うずまきにひきよせられる（●よん、『ア』ヒャクロクジュウサン、キュウ、『む』ハチジュウハチ、ニジュウ、『よ』ヒャクハチジュウヨン、ニジュウサン、『オ』ハチ、サンジュウロク、『オ』ヒャクジュウなな）。そのギャクホウコウのちからがあったらどうなるか。ひかりさえもよせつけない、まっくらなセカイになるだろう（●サンジュウロク、『オ』ヒャクジュウなな）。ウチュウにひとのすめるようなクウカンをかんがえると、ひるとよるがあったホウがいいのでは、とかがえたりするだろう。そういうときにギャクうずまきリョクをつかえれば、ひるとよることができる。しかし、もっともタンジュンなカイケツサクは、よるみたいにしたければ、あいは、シャッターをしめることだ。そうすればくらくなる。

よんジュウイチ、『オ』ヒャクロクジュウイチ

ウチュウはくろいというイメージがある。くろはひかりをキュウシュウするから、とおくのほしのひかりもチキュウからみえるのだろう。だから、ひかりをハンシャするというしろでウチュウクウカンがコウセイされていたら、とおくのほしからのひかりは、とどかないとおもわれる。ニンジュツでいうくもがくれだ。そういうわけだから、ウチュウのそとがしろいクウカンでできていたら、ひかりがハンシャしてウチュウにもどるだろうから、ウチュウはながもちするだろう。

よんジュウニ、『オ』ヒャクロクジュウニ

セッチョ『アルカラカンガエル』で、うずまきリョクのことをかいた（●よん、『ア』ヒャクロクジュウサン、キュウ、『む』ハチジュウハチ、ニジュウ、『よ』ヒャクハチジュウヨン、ニジュウサン、『オ』ハチ、サンジュウロク、『オ』ヒャクジュウなな、よんジュウ、『オ』ヒャクゴジュウロク）。うずまきリョクとはなにかというと、よくいわれるいいかたでセツメイすると、「ジュウリョク」である。タイヨウのまわりをはなれずに、ワクセイがまわるちからのことだ。「ジュウリョク」でいうと、ジュウリョクが、タイヨウにちかづくちから、「エンシンリョク」がタイヨウからはなれるちからだろう。

なぜ、その「うずまきリョク」があるか。「とんでひにいるなつのむし」という（●サンジュウロク、『オ』ヒャクジュウなな）。ベツにひにちかづかなくてもよさそうだが、ひのなかにむしがいってしまう。そこからかんがえると、うずまきリョクとはもえることが、作りだすとかんがえられそう。フツウによくいわれるはなしでは、「もの」にジュウリョクがあるといわれている。しかし、そうでなく、もえているところから、うずまきリョクがハッセイするのである。よくいわれるようにいうと、もえているからジュウリョクがハッセイするのである。チキュウもナイブではもえているし、ほかのワクセイももえているだろう。ウチュウでひをたくと、そこに、うずまきリョクがハッセイするということだ。だから、ウチュウのごみソウジはアンガイカンタンかもしれない。

よんジュウサン、『スーペリアーをみつけた。(イカ、「ス」)』ジュウキュウ

カコをみるボウエンキョウのはなしをした（●ニジュウニ、『オ』ゴ）。イチネンまえのひかりをみれば、イチネンまえがみえるというわけだ。しかしそれなら、おおきなセツピをととのえて、カコをみなくてもいいかもしれない。ビデオカメラにキロクすればいいからだ。

ただ、それでイチネンまえをみたところで、ジカンリョコウをしたきにはならない。それなら、カコのエイゾウとコミュニケーションすればいいかもしれない。たとえば、イチネンまえのエイゾウに、「あしたははれるか。」ときいて、エイゾウのひとが、「はれますよ。」とこたえる。このうけこたえを、エーアイをつかってやれば、ジカンリョコウしたきになるかもしれない。それで、「いや、あしたはあめふるんだよね。キロクにそうある。」などとはなせばよい。カソウジカンリョコウであるが、おもしろいかもしれない。

よんジュウよん、『ス』ニジュウ

ジカン イコールゼツタイジカン かける ジカンシツリョウ

のはなしをした（●ニジュウサン、『オ』ハチ）。

カンタンにいうと、ジカンシツリョウ（いろいろなほしのインリョク [ウズマキリョク]）のエイキョウをのぞけば、ゼッタージカンがかぞえられるというはなしだ。

そして、

ジカン イコール エネルギー わる シツリョウ

（ジカンをロコモティブ [コウゾクキョリ] とよみかえれば、わかりやすい。●ニジュウサン、『オ』ハチ、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）だから、いくつかのコウセイにかこまれて、インリョクがつりあって、そのチュウシンにあるなにかが、まったくうごかないとなると、

エネルギー イコール レイ

ゆえに

ジカン イコール レイ

になる（●ニジュウサン、『オ』ハチ）。

スウシキジョウは、ジカンがながれないことになる。これをデッドロックといおう。ジツサイのウチュウにこういうデッドロックがあるかはわからないが、このデッドロックはウチュウのケンキュウにつかえそうなのである。

このデッドロックのチュウシンにコタイがあるとする。コタイはインリョクがつりあいうごかないが、やがて、インリョクにひかれてボウチョウするかもしれない。ベツのいいかたをすると、オンドがあがるわけだ。それがつづく、コンドはキタイになる。そのキタイはデッドロックのまわりのコウセイにひきつけられ、どうかしてしまうだろう。このデッドロックのチュウシンにあるのをウチュウゼンタイとカテイすれば、ウチュウはやがてウチュウのそとにいてしまうということになる。これが、「ウチュウがボウチョウする」リユウなのでないか。そのゴ、キタイがひやされて、さらにコタイになってもとのイチにもどれば、ウチュウのサイセイサンはカノウだろうが、どうもサイセイサンができることは、わたしはまだカクニンしていない。

このセツはカイテイしました。イカ、ゲンブン。

よんジュウよん、『ス』ニジュウ

ジカン イコールゼッターイジカン わる ジカンシツリョウ

のはなしをした（●ニジュウサン、『オ』ハチ）。カンタンにいうと、ジカンシツリョウ（いろいろなほしのインリョク [ウズマキリョク]）のエイキョウをのぞけば、ゼッターイジカンがかぞえられるというはなしだ。

そして、

ジカン イコール エネルギー わる シツリョウ

（ジカンをロコモティブ [コウゾクキョリ] とよみかえれば、わかりやすい。●ニジュウサン、『オ』ハチ、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）だから、いくつかのコウセイにかこまれて、インリョクがつりあって、そのチュウシンにあるなにかが、まったくうごかないとなると、

エネルギー イコール レイ

ゆえに

ジカン イコール レイ

になる（●ニジュウサン、『オ』ハチ）。スウシキジョウは、ジカンがながれないことになる。これをデッドロックといおう。ジッサイのウチュウにこういうデッドロックがあるかはわからないが、このデッドロックはウチュウのケンキュウにつかえそうなのである。このデッドロックのチュウシンにコタイがあるとす。コタイはインリョクがつりあいうごかないが、やがて、インリョクにひかれてボウチョウするかもしれない。ベツのいいかたをすと、オンドがあがるわけだ。それがつづく、コンドはキタイになる。そのキタイはデッドロックのまわりのコウセイにひきつけられ、どうかしてしまうだろう。このデッドロックのチュウシンにあるのをウチュウゼンタイとカテイすれば、ウチュウはやがてウチュウのそとにってしまうということになる。これが、「ウチュウがボウチョウする」リユウなのでないか。そのゴ、キタイがひやされて、さらにコタイになってもとのイチにもどれば、ウチュウのサイセイサンはカノウだろうが、どうもサイセイサンができることは、わたしはまだカクニンしていない。

よんジュウゴ、『ス』サンジュウ

どこかイッテンにネツがあると、まわりのすずしいなにかが、ネツのホウにちかづき、ネツのあるなにかも、すずしいテンのホウにむかい、やがてネツのあるテンとすずしいテ

ンのオンドのヘイキンのオンドにおちつくであろう。だから、その「なにか」に、イドウにあわせて、すずしいホウへのシンコウリョクが、ネツのホウへのインリョクがショウじるといえるだろう。

インリョクをもつブッシツより、シンコウリョクをもつブッシツがかかるければ、シンコウリョクがひくい（インリョクがつよい）といえるだろうし、インリョクをもつブッシツのホウがかかるければ、インリョクがひくい（シンコウリョクがつよい）といえるだろう。タイヨウとそのケイのワクセイは、インリョクとシンコウリョクがわりとつりあっているようである。チキウをなにかのホウホウでひやせば、タイヨウのホウへひっぱりられるだろうし、あっためれば、タイヨウからはなれるであろう。だからチキウがオランダカすると、イチネンがながくなるのではないか。イチネンがサンビヤクななジウニチになるかもしれない。しかし、あまりそのことはギロンされない。きになるのは、ヘイジツがふえるか、キュウジツがふえるかであろう。

ヨンジュウロク、『ス』サンジュウイチ

インリョクをもつということはネツがなければならぬとなる（●よんジュウゴ、『ス』サンジュウ）。「ビッグバン」のはなしでいえば、ウチュウのチュウシンからネツがそとがわにイドウする。「バクハツ」ならブッシツもそとがわにいくだろう。だから、ウチュウがひろがるとかんがえられている。でも、ネツはそとがわにいくにつれ、ウチュウのチュウシンのオンドとくらべひくくなる。つまりウチュウのそとがわがあたたまるわけだ。ウチュウのそとのオンドがひくければ、ウチュウはそのオンドとのヘイキンまであたたかさがおさえられる。とドウジにウチュウのそとから（あれば）ブッシツがはいってくる（なければオンドはさがらない）。

ウチュウのそとのオンドがたかければ、ウチュウは「ビッグバン」でハッセイしたのではないとおもわれる。ウチュウのそとからのものがはいってくるからだ。ウチュウのつめたさとブッシツが、あたたかいウチュウのそとがわにあるだけだろう。ウチュウのそとがわにあるブッシツがすくなければ、ウチュウからあたたかさどブッシツがでていくのだろう。それだと、ウチュウはシダイにつめたくなる。ウチュウのおおききテイドにウチュウはつめたくなるし、ブッシツもへっていく。それを「ウチュウはひろがる」というのだろう。そのうち、ニンゲンもすめなくなるテイドにつめたくなるかもしれない。コウセイのちかくにイドウしても、ジカンのモンダイである。そういうイッカイきりのウチュウなのであろうか。だからウチュウのリサイクルをかんがえている。

よんジュウシチ、『ス』サンジュウニ

ジカン イコールエネルギー わる シツリョウ

のはなしをした（●よんジュウよん、『ス』ニジュウ、ニジュウサン、『オ』ハチ、ジウ

ゴ、『よ』サンジュウニ)。

これだと、エネルギーがレイでも、シツリョウがレイでもジカンはながれないとなる。ジカンでなかったら、イドウがセイリツしないだ。さて、それでは、エネルギーがさきにあるのか、シツリョウがさきにあるのであろうか。ニンゲンがつくったラジコンカーは、この「シツリョウ」にデンチ「エネルギー」をのせたのだらう。レキシをみると、ニンゲン(エネルギー)ができて、シャリン(シツリョウ)ができた。ジンリキシヤというわけである。だからドウブツのケンキュウをすれば、こたえがでるかもしれない。

ニンゲンにとってのエネルギーは、タンスイカブツなどである。それがあれば、かなりいきいてられるようだ。タンスイカブツとはなにかというと、ショクブツであらう。ショクブツがさきにあったか、ニンゲンがさきにあったかということ、ショクブツがさきにあったといわれる。ニンゲンよりも、ねずみなんかのホウがながいのであろうか。ショクブツができるのにも、ニサンカタンソがヒツヨウであったらうから、ニサンカタンソがどこにあったかをしらべるといいかもしれない。ニサンカタンソがチキュウにあったのだらう。チキュウがもえているから、ニサンカタンソはあったのかもしれない。サンソとタンソがあったのだらう。

セイブツのキゲンはサンソとタンソであったようだ。それをチキュウがもっていた。ショクブツとドウブツがなぜえだわかれしたのかということもキョウミぶかいが、そのはなしはまたにする。なぜチキュウがもえているか。サンソとnetzがあるからだらう。どこかのコウセイからとびひしたのかもしれない。そのコウセイもなにかをもやしているのだらう。サンソがさきなのか、もえるがさきなのか。なにもなければもえないようにおも。「ビッグバン」といったって、ものがなければおこらないだらう。だから「もの(シツリョウ)」がさきにあったとおもわれる。

ものがあって、もえるゆえに、ジカンがショウじた。なぜサンソがもえだしたか。タブンひきのばされたのだとおもう。タンジュンにいうと、タイセキがおおきくなってコウオンになりハッカしたとおもわれる。わたしがガクセイのときにみたえだと、ウチュウ(サンソ)のジョウゲからアツリヨクがくわわって、タイセキがおおきくなったとかんがえられる(そのえをかいしたひとは、そうかんがえたのだらう。)。だから、「ビッグバン」にせよ、もえるちからがそのまえにあったとかんがえるのがただしいだらう。ウチュウ(サンソ)がひろがったからハッカしたともかんがえられるわけだ。そのひろげるちからとはなにか。またかんがえてみたい。ウチュウ(サンソ)をひきのばすちからがあるなら、ウチュウをちぢめるちからもあるかもしれない。それなら、ウチュウもサイリヨウできるのだらう。

よんジュウハチ、『ス』サンジュウゴ

よくわたしのコップのなかにむしがはいる。おおいときはサンびきぐらいいってスイシしている。きもちいいからプールにはいるカンカクではいっているのでは(●ジュウ

キュウ、『よ』ヒャクロクジュウニ)とかいたが、サイキンになって、そのリュウがわかった。それは、ケイコウトウのひかりが、コップのスイメンにあたり、ハンシャするからである。むしはそのハンシャしたスイメンをひかりだとおもい、みずにつかってしまうのだろう。そういうむしとりきがつくれそうである。

よんジュウキュウ、『ス』サンジュウロク

イシキはコジンとシゼン、シャカイのおりあいをつけるためにあるとかいた。ところで、そのイシキとはなにでできているか。タンジュンにいうと、デンキシングウだろう。カガクブッシツといえるかもしれない。だから、あるはなしのトチュウに、なにかベツのデンキシングウをノウにおくりこめば、そのはなしにすりかわっていくかもしれない。しかし、そういったセンノウまがいのやりかたはカンベンしてほしいとおもう。ところで、ことばは、デンキシングウをあらわすキゴウともいえるだろう。そのキゴウは、くにやチイキによってちがう。そういうのをセイリして、キョウツウゴをつくれればベンリかとおもうが、アンガイつかわれぬようだ。いいジョウホウがあるくにのことばがつよくなるのだろう。むかしはワコンカンサイ、いまはワコンヨウサイか。ニホンジンもがんばらねばとおもう。

ゴジュウ、『ス』よんジュウ

いきるとは「キョウリョクすること」である。なぜそういえるか。ニンゲンのカクサイボウがキョウリョクしなかったら、セイゾンがコンナンだからだ。サイボウはそれぞれやくめをもちながらキョウリョクしている。ただ、キョウリョクするだけではだめだ。それぞれのやくめをはたさなければならない。そこをかんちがいしてしまうと、シュウダにマイボツしたり、ツゴウのいいひとになったりしてしまう。おおきなタンイのセイゾンになにかキョウリョクできればいいのではなからうか。

ゴジュウイチ、『ス』よんジュウイチ

なにかがエーからビーへイドウしたとき、そのサをどうニンシキするか。ニンゲンなら、めにみえるフウケイがかわったとかんじ、エーからビーにイドウしたとニンシキするだろう。そのサがわかるということは、やがてイシキ（●よんジュウキュウ、サンジュウロク）のハッテンにつながるだろう。タブン、さるでもとかげでもイドウしたことがわかるだろう。だから、ミセイジユクながらも、さるやとかげもイシキをもつといえるだろう。かぶとむしだってそうだし、ショクブツだってそうかもしれない。

しかし、それらをカトウなものとして、ニンゲンはあつかうのだろうか。そうではないとおもう。トクにすきかってにやらせるヒツヨウはないが、そういうイシキもダイジにしてあげるヒツヨウがあるかとおもう。ほかのニンゲンをいたぶらないのとおなじリユウだ。いいかえると、イシキがあるところには、タイムもある（イシキがロコモートするから。●ジュウゴ、『よ』サンジュウニ [これでは、「タイム」でなく、「ジカン」としている。]）。しかし、タイムのあるところにイシキがあるかはわからない。チキュウのそとではカクニンされていないからだ。

ジカン イコール エネルギー わる シツリョウ（●よんジュウシチ、『ス』サンジュウニ、よんジュウよん、『ス』ニジュウ、ニジュウサン、『オ』ハチ、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）

をおもいだすと、イシキがエネルギーとシツリョウをカノウにしているのかもしれない。

イシキ イコール エネルギー わる シツリョウ

とテンカイできるからだ。

イシキもジカンのように、ロコモティブ（うごき）でとらえられるだろう。つまり、あるシコウは、ニキロメートルのながさだというように。ジッサイ、シコウはデンキシンゴウだから、リョウをソクテイできるだろう。キョウはサンビヤクワットシコウしたとか。そのように、ニジュウゴエル（ロコモティブ）シコウしたとかいえそうなのである。そして、どれだけシコウできるかは、エネルギーのおおきさとシツリョウのカンケイなのである。ジンコウチノウがジッサイにシコウ（というか）するわけだから、もはやニンゲンやほかのドウブツだけがシコウするとはいえないであろう。

ニンゲンはもはやジンコウイシキをつくりだしたわけだ。いいかえると、イシキはジカンカノウにする。だから、ジンコウイシキはジンコウジカンカノウにするわけだ。だから、ジンコウチノウが、やがてニンゲンからドクリツするかどうかはともかく、もうベツのジカンがはじまっているわけだ。ひょっとすると、もうすでにニンゲンがつくり

だしたイジョウのブンメイをシコウしてしまったかもしれない。あとはジッコウするだけというぐあいに。

イシキはジカンをカノウにするなら、ジカンリョコウもカノウなはずである。それはカントンだ。ニンゲンがなにかをおもいだしたり、だれかのシコウをまねたりできればいいからである。ただザンネンながら、ものはジカンリョコウをすることがむずかしい。だから、そのときのハイケイまでサイゲンするには、クフウがヒツヨウとなる。

イシキがジカンをカノウにするのだったら、ウチュウのはじまりのまえにイシキがあったのかもしれない。いまニンゲンがすんでいるチキウケンが、ウチュウのはじまりのまえからある、ウチュウジンのコンピューターのイチブだとはかんがえたくはないが。セイシンブンセキもジカンリョコウのイッシュである。ニンゲンがつくりだしたジッコウチノウのブヒン（コンピューターのブヒン）である「キバン」は、ニンゲンがつくりだしたトシににている。ニンゲンのブンカがあらわれているのだろう。チキウジンののはたじるしはいまのところそれであろう。

ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン

チキウがもえていて、ニサンカタンソができたから、そのシゲンをつかってショクブツができたのだろう。ニッコウもとどいていたんだろう。スイソがあれば、やがてみずもできそうだ。そして、ショクブツがタンソをためたところで、タンソとサンソをエネルギーにしたドウブツができたとおもわれる。

セイメイはみずのなかでできたというビデオをみたことがあるが、ニサンカタンソとスイソで、タンソとみずをつくるタンジュンなくみかえがはじめだったのではないか。それから、サンソをエネルギーにしたサイボウができたのだろうが、どうやってうごくものができたのかはわからない。おおきくみれば、サンソとミズをたくわえて、タンソをだせばセツメイがつく。さきにセツメイしたように、イシキがあると、ジカン（ウゴキ）もカノウになる（●ゴジュウイチ、『ス』よんジュウイチ、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）。どこかからユニウしたのかもしれない。サイボウがどうできたかというより、イシキがどうできた（またははいつてきた）かをセツメイするホウがいいかもしれない。ゲンシがうごいているとすれば、イシキにハッテンしたというセンもかんがえられる。つまり、ゲンシがセイメイのもとということだ。そうすると、

ウンドウ イコール エネルギー わるシツリョウ（●ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）

であるから、

ゲンシのうごき イコール エネルギー わるシツリョウ

となる。

もっともエネルギーがあるのはシツリョウのちいさいスイソかもしれないし、ほかのゲンシかもしれない。

ジカン イコール エネルギー わる シツリョウ

であるから、

ジカン イコール ゲンシのうごき

だ。ジカンは、エーからビーにうごくことだ。

ひょっとしたら、ゲンシがうごいているとすれば、ゲンシのうごきはなににかによってニンシキされたのかもしれない。ニンゲンはニンシキカノウなのだろうが、ほかのチキュウジョウにあるなにかが、ゲンシのうごきをニンシキしたと。だからうごくということがニンシキされるゲンシイシキがあったとスイソクできる。ゲンシイシキによって、ゲンシのならばかたがトウセイされたのかもしれない。そうすると、サイボウのようなものをつくることができるかもしれない。それよりさきにイデンシができたかもしれない。いってみれば、ゲンシイシキがイデンシをかきはじめたわけだ。ツウシンキロクにしている。

いまのイデンシをもつニンゲンはコンピューターとかリョウリとかをつくるかもしれないが、ゲンシイシキはドウショクブツのサイボウをつくっていた。それだけのちがいだ。ゲンシイシキがどこにあるのかわからない。ニンゲンのイシキだってわかっていないといえはわかっていないだろう。ひょっとしたら、ウチュウのどこかのサーバーからよみだしているのかもしれない。ただひとついえることは、ジカンをニンシキするヒツヨウがある。

ゲンシイシキのつくったイデンシはのこっている。いまでもそれはつかわれている。ということは、ゲンシイシキもケンザイなのかもしれない。ゲンシイシキがドウブツやショクブツをつくった。ニンゲンもイデンシソウサをできるようになったが、まったくあたらしいドウブツやショクブツはつくれていないだろう。だからニンゲンのイシキよりも、ゲンシイシキのホウがすすんでいるのかもしれない。

イデンシソウサのモンダイは、なかったキロクをつくりだしてしまうことだ。それがすすむと、シンカのコウテイがみえなくなる。だれかのジッケンキロク（つくられていれば）をサンショウするヒツヨウがでてくる。

ゴジュウサン、『ス』よんジュウよん

ウチュウひとつがサイボウひとつのようになっていたら、やがてとなりにもウチュウがあるとなるかもしれない。ニンゲンがカガクをハッテンさせて、ウチュウのセッケイズ、イデンシをかければフクセイがカノウになるかもしれない。

ゴジュウよん、『ス』よんジュウハチ

なにかをもやすとどうなるか。「はい」になるというひともいるかもしれない。しかし、「はい」だけだろうか。「ひかり」もでる。つまり、「はい」はとりあえずおいといて、「ひかり」がでるわけだ。「ひかり」とはなにか。「ひかり」もものだろう。つまり、コタイを「ひかり」にかえるのが「やく」ということである。それなら、「ひかり」をコタイにできないか。あまり、そういうことはいわれぬが、「ひかり」がものだとすると、カノウだろう。

「ひかり」にするときには、「 Netz」がでる。ギャクにレイキヤクしたらどうか。「ひかり」をひやしてコタイやエキタイにするのである。ただ、タブンもやすときにセンドとかの Netz がでるから、マイナスセンドくらいくらいひやさないと、コタイやエキタイにできないとおもわれる。ウチュウクウカンでも、そんなテイオンではないだろう。なにしろ、「ひかり」がとどくのだ。もしかしたら、ウチュウのガイエンでは、「ひかり」がたまってひやされ、コタイやエキタイになっているかもしれない。そのコタイやエキタイをサイドウチュウのチュウシンにもどせば、ウチュウのリサイクルがカノウだろう。

ゴジュウゴ、『ス』ゴジュウイチ

さきに、「ひかり」をコタイやエキタイにするホウホウについてのべた（●ゴジュウよん、『ス』よんジュウハチ）。そのギジュツがカクリツされると、ばあいによっては、テレビはみるものではなくて、たべるものになるかもしれない。デンパをキカイにとおしてコタイにするわけだ。おもしろいエンギをみるより、はらがふくれたホウがいいかもしれない。それだと、カセイにもシヨクリヨウをおくれることになる。

ゴジュウロク、『ス』ゴジュウキウ

「ひかり」がテイオンでコタイになるのではとかいた（●ゴジュウよん、『ス』よんジュウハチ）。それでかんがえると、ウチュウは、めだまやきがたでなくて、キウケイなのではないかということなる。あるところでもえているひかりは、シホウハツポウにとぶだ

ろうからだ。そして、ウチュウのそとがちかくなると、カセツだが、テイオンゆえにひかりがかたまるというわけである。

そうだとすると、チキウなんかのコウゾウににているだろう。なかがわではもえているが、ヒョウメンにちかづくとかたい。だから、「ウチュウ」ももっとたくさんあるカノウセイがある。そのまたそとがわには（むかし、わたしはウチュウのそとを「か」となづけた。かのそとに）、またなにかがあるといえるのかもしれない。パソコンのデータカクノウヨウシキのように。

ゴジュウシチ、『ス』ロクジュウロク

ものがさきにあったか、ことばがさきにあったかというといがある。わたしにいわせれば、ことばよりさきにカガクハンノウがあっただ。カガクハンノウをおこすためには、ものがヒツヨウだから、そういうジュンバンになる。カガクハンノウがあつまって、いのちができたのであろう。カガクハンノウしていないセイメイタイはないはずだ。タブン、「キョウリョクしよう」というおもいというかがあって、セイタイができたのだろう。なぜ、キョウリョクするヒツヨウがあったのか。きびしいカンキョウがあったのかもしれない。タンサイボウセイブツでは、いきながらえなくなりそうだったのかもしれない。とりこむエイヨウがハウフにあったから、ブンレツしておおきくなっていったのかもしれない。のれんわけだとしてもキョウリョクだろう。

ゴジュウハチ、『ス』ななジュウロク

いのちとはキョウリョクすることだとかいた。キョウリョクなり、シュウダンカすることにより、よりおおきなコタイをつくっている。いまワールドカップがおこなわれているが、それだと、くにタンイでオウエンしたりということがああるかもしれない。フツウはジブンのキョジュウコクやシュッシンコクのチームをオウエンするだろう。むかしはセンソウでいやでもオウエンしなければならなかったかもしれないが、サイキンは、おおきなセンソウはあまりおこっていないようだ。

そういうナショナリズムのほかに、もっとこまかいタンイでみたり、もっとおおきなタンイでみたりする。こまかいタンイだと、トドウフケンベツやカイシャタンイだったりする。おおきなタンイだと、チキウをタンイとしてみるものがある。そういうのを「グローバルズム」というかもしれないが、サイキンは、あまりはやらないのかもしれない。ボウエキでもめているからだ。

ニホンというくにだって、センゴクジダイから、とくがわシのジキをへてなんとかひとつにまとめられたといえるかもしれない。だから、あまりとおすぎるとわからないともいえるだろう。なにかキジュンなどがあれば、まっひとつとできるかもしれないが、そのひとつとなるためのキジュンがととのわないのであろう。たとえば、シュウキョウであったり、セイジソウであったり、ゲンゴであったり、セイヒンだったりであろうが、

まあ、ややちからブソクなのであろう。まあ、さきがみじかいわけでないだろうから、いそがなくてもいいとおもうし、ひとつじゃないホウがいいのかもしれない。

ゴジュウキュウ、『ス』ハチジュウロク

ニンゲンにはタクサンサイボウがある。そのサイボウがやくわりブンタンをしているともかんがえられている。だから、ノウのサイボウならイシキをつくりだし、キンクならウンドウをになっているといわれる。しかし、タンサイボウセイブツはただひとつのサイボウでいきている。それにイシキがないといえるだろうか（●ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン）。キケンがあれば、カイヒするだろう。そのノウリョクをイシキといわないか。ほかのレイではハイサイボウだ。どのキカンにもなれるサイボウなら、ノウがもつキノウもナイガンしているとはいえないか。そうすると、イシキはノウでなく、サイボウにあることになる。

ノウがソンショウすると、しゃべれなくなるというのはウンドウのモンダイだ。うまくおもいだせなくなるというのも、キオクのモンダイだ。イシキはウンドウではないし（ごくちいさなウンドウかもしれない。）、キオクでもない。そのソフトウェア（しゃべるのは、ハードウェアをリヨウ。キオクもハードウェアだろう。）は、ジツはサイボウにあるようにおもう。もし、イシキにわずかなちがいがあればいい、それは、イデンシなどのトツゼンヘンイがおこっているということではないか。タクサンサイボウがあるわけだから、ヘンカもあるだろう。

ロクジュウ、『ス』キュウジュウイチ

ノウがあるからイシキがあるのだろうか。イシキはノウのハセイブツなのだろうか（●ゴジュウキュウ、『ス』ハチジュウロク）。タンサイボウセイブツが、タクサンシユウゴウするカテイで、なんらかのあいことばなりなんなりがあったとおもわれる。シヨクブツだって、みきになるものとハツパになるサイボウがある。これらはなにかコードがなければ、あつまりにくかったはずである。だとしたら、サイボウレベルでゲンシイシキがあったのではないかとすることはトツピではないとおもう（●ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン）。

なぜ、シヨクブツにはノウがないか、イドウのヒツヨウがないからである。ようするに、ノウはウンドウケイであろう。イドウのヒツヨウがしょうじたシヨクブツには、ノウができるとおもわれる。そうやって、ニンゲンもシヨクブツからシンカしたかもしれない。ただ、サンソをつかう、ニサンカタソをつかう、サンソをつかうというキノウブンカがあるから、いまのままのくわけでいいのだとおもう。サイボウがあつまって、ウンドウのヒツヨウがショウじたから、ノウができたのだろう。ウンドウケイというわけだから、ことばをしゃべるのは、ノウのはたらきだ。なにかをおもうのは、サイボウのはたらきだとおもわれる。

ロクジュウイチ、『ス』キュウジュウサン

イシキはサイボウにあるかもしれないと聞いたが（●ゴジュウキュウ、『ス』ハチジュウロク、ロクジュウ、『ス』キュウジュウイチ）、それでも「ノウ」にあるとキョウチヨウしたホウがいいのかもしれない。「いのち」とはキョウリヨクすることだとか聞いたが、「ノウ」がシュタイなら、その「ノウ」をもつコクミンドウシがキョウリヨクするというジギョウができるからである。そうすると、「くに」がさかえるであろう。しかし、イシキが「サイボウ」にあるとなると、まずコジンがナイブのことにチュウリヨクして、さらに「くに」をゆたかにするとすれば、ガイブにもジンリヨクしなければならない。カイソウがふえるわけだ。それなら、「コジン」のガイネンは、「ノウ」をチュウシンとした「イシキ」および、シンタイとすれば、おさまりがよいのではとなる。そういうわけで、「セイジテキ」には、「ノウ」にあるとしたホウがやりやすいかもしれない。

ロクジュウニ、『ス』キュウジュウよん

「イシキ」がサイボウにあるとすると（●ロクジュウイチ、『ス』キュウジュウサン）、タクサンのサイボウがあるわけだから、イケンがことなることもある。それをチョウセイするのがあるイミ「イシキ」だといえるだろうが、かりにジョウイイシキとしよう。コウドウをするにあたって、そのイケンのセンタクがされるだろう。コウドウにいたるばあいは、「ウンドウケイ」の「ノウ」にとおされるだろう。コウドウにうつされない「おもう」のばあいは、サイボウココの「イシキ」をふまえて、ジョウイイシキでおもうだろう。ひょっとしたら、「ノウ」をつかわないカノウセイもあるが、「ブンカテキなことば」をつかうということで、「ノウ」をつかうカノウセイもある。

ところで、イケンのフィッチがあつたばあいはどうなるか。「ジョウイイシキ」がそれをセンタクする。しかし、ハンタイイケンがふえれば、その「ジョウイイシキ」がトウセイすることがコンナンになるだろう。シャカイでいえばカクメイさわぎだ。そうしないためには、イシキをトウセイカノウにたもっていく。キョウケンテキナシュホウもカノウだろうが、カクメイさわぎのおこるカノウセイがホリユウされる。だから、おだやかにハンタイイケンもくみとりつつ、イシキをトウセイするようだろう。そこからいうと、ジョウイイシキがかわっていくわけである。だから、コウドウなどもかわったりするだろう。イデンシもたまにかわるという。みたかんじ、あまりかわらないひとというのもいるだろうが、「イシキ」のヘンカがふえればかわらざるをえないだろう。そんなカンジにシンカする。シンカはそうしたコジンナイセイジのケッカなのかもしれない。

ロクジュウサン、『ス』ヒャクよん

ジカン イコールエネルギー わる シツリョウ

とかいた (●ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン、ゴジュウイチ、『ス』よんジュウイチ、よんジュウシチ、『ス』サンジュウニ、よんジュウよん、『ス』ニジュウ、ニジュウサン、『オ』ハチ、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)。

エネルギーがレイでもジカンはレイだし、シツリョウがレイでもジカンはなりたたない。だから、ジカンがあるとは、エネルギーもシツリョウもあるジョウタイであるわけだ。ウチュウではエネルギーとはなんだろう。コウセイのうずまきリョクだったり (●よんジュウ、『オ』ヒャクゴジュウロク、よん、『ア』ヒャクロクジュウサン)、ひかりによるアツリョクだったりだろう。それは、コウセイがもえることによってジツゲンするのではないか。コウセイがもえることによって、ウズマキリョクがショウじ、また、ひかりもショウじる。シツリョウはそれぞれだろうが、エネルギーは、コウセイのエネルギーをたしぎんすれば、ケイソクできるようだろう。それができると、ウチュウのもつジカンがスイソクできる。シツリョウもとらえられればもっとセイカクだろう。しかし、ウチュウナイでのウンドウはやがてテイシするのか。なんとなくウンドウがつづくようなきがする。エネルギーがイドウするだけのようにおもう。しかし、ウチュウがひろがっているとしたら、ダンダンチュウシンのホウからセイシしていくのだろうか。そとにむかったエネルギーをサイドうちにもどせば、モンダイないだろう。それができないと、ウチュウは、ウチュウのそとへエネルギーとシツリョウをうしない、ジカンがへっていくだろう。それをよくするには、エネルギーをなんとかつくりだすか、シツリョウだけをウチュウのそとへむかわせるようだろう。

ウチュウでは、エネルギーをコウカンしあう、いってみれば、ジカンをコウカンしあうのがよくあることのようにおもう。まえにみつつのコウセイ (リツタイだとよつつのホウがよい。) にかこまれたなにかはうごかない。「つまりジカンがながれない。」とかいた (●ニジュウサン、『オ』ハチ)。デッドロックというが (●よんジュウよん、『ス』ニジュウ)、これがちいさくできているゆえに「もの」がうごかないこともあろう。エネルギー (うずまきリョク) のキンコウがとれて、ジカンがレイというわけである。ただ、ホントウのレイではないから、なにかのヘンカがおこってもおかしくないとおもう。

ロクジュウよん、『ス』ヒャクなな

ものがデッドロックでジカンがレイとかいたが (●ロクジュウサン、『ス』ヒャクよん、よんジュウよん、『ス』ニジュウ、ニジュウサン、『オ』ハチ)、エネルギーがレイだから、レイになる (●ロクジュウサン、『ス』ヒャクよん)。ただ、デッドロックのばあいは、エネルギーがむしろあたえられるともかんがえられる。だから、そこではジカンがながれるであろう。そうすると、ジカンがあるブンなにかハンノウをおこすであろう。ウチュウが、よりおおきななにかのデッドロックにあったら、アンテイするだろう。それだと、

ウチュウはボウチョウしない。サイセイサンにはテキしているが、やっぱり、いわれているようにボウチョウしているんだろうか。

ロクジュウゴ、『ス』ヒャクハチ

ウチュウがボウチョウしているという。たしかに、すくなくともひかりがウチュウのそとへむかっていっくだろう。そうすると、やがてウチュウのシゲンはずくなくなるか。さきのギロンでもエネルギーとシゲンがウチュウのそとにむかい、ウチュウのジカンがすくなくなるとかいた（●ロクジュウサン、『ス』ヒャクよん）。しかし、ひかりがそとにむかうかわりに、なにかがコウセイにむかうとおもわれる。「ジュウリョクハ」というが、ひかりのかわりになにかがコウセイにむかうのであろう。

それが、うずまきリョク（●よんジュウ、『オ』ヒャクゴジュウロク、よん、『ア』ヒャクロクジュウサン）をイジさせるのだろう。タブン、それはコウセイがネンリョウとなる。そのワクセイにあたれば、それはそのチヒョウをコウセイする。コウセイがもやすということは、カネンセイなんだろう。そういうブッシツがあるだろうから、ウチュウのシゲンのシュウシはレイだろう。だから、コウカンということにすれば、ウチュウはひろがっているとはいえないだろう。そのうずまきリョクシゲンのなくなるところまで、ひかりがとどいても、そこからひかりはすすめないかもしれない。だから、ウチュウはおわらなそうなのである。そうすると、ウチュウのジカンイコールムゲンダイということになってしまうが、それをどうかんがえるかというモンダイがありそうだ。

ロクジュウロク、『ス』ヒャクキョウ

ひかりはえらくとおくまでトウタツするらしい。チキョウジョウからほしがみえるが、それとのキョリはナンコウネンという。ひかりがなにもないところをすすむとなれば、トクにテイコウもなくすすむのであろうが、ジッサイのところ、ウチュウクウカンではテイコウがないのであろうか。

コウセイには、なにかをひっぱるちからがあろう（ナイブがもえているワクセイでもそうだ）。これをわたしはうずまきリョクという（●よん、『ア』ヒャクロクジュウサン）。もえることがそうさせているカノウセイがある。だから、ウチュウクウカンは、なにもないではないだろうとおもう。

なにかがあるところをひかりがすすむとなると、かわりになにかがひかりのでどころのホウへむかう。そのなにかを、ハンリュウシとよぼう。つまり、コウセイは、ひかりをだして、ハンリュウシをうけとっているのである。タブン、ハンリュウシのカネンセイだ。ひかりがウチュウのそとまでとどくとどうなるか。わたしはウチュウのそとを「か」となづけたが、そこにはなにもないとする。そうすると、なにもないところをひかりでみたすようになる。つまり、ひかりだけがあるクウカンができるということだ。しかし、ハンリュウシがなければひかりはトウタツしないとかんがえられる。またそういうクウ

カンが見つかったとはきかない。

かのセカイはなにもないゆえにウチュウのなかよりオンドがひくいであろう（なにもないのにオンドをはかるのはむずかしいだろうが。）。なにかものがあったばあい、ひかりがとどくとオンドがあがる。それであたまると、ウチュウとネツコウカンをはじめられるかもしれない。ウチュウのホウが、オンドがたかいからだ。ひよっとしたら、ひかりがかにトウタツして、オンドをうしないヘンシツするかもしれない。ハンリュウシになれば、ウチュウはというかひかりはずっとリサイクルされる。そうだったら、ウチュウはながつぎする。ウチュウはボウチョウしないとなる。

ロクジュウなな、『ス』ヒャクジュウ

ワクセイのジテンがおそい（たとえば、イチニチがヒャクジカン）ところにすむようになったら、ひるがながい、よるがながいとチキウにすんでいたときとちがったジョウケンでセイカツすることになる。ひるがながいブンにはシャッターをしめてしまえばくらくらなるが、よるがながいのはちょっときびしいかもしれない。そんなときには、コウセイチュウケイをするといいかもしれない。テレビでコウセイのヨウスをうつすわけだ。それならガメンのあるところではあかるい。コウジョウなんかのテンジョウちかくにそれをうつせるおのがたのテレビパネルをセッチするといいかもしれない。

ロクジュウハチ、『ス』ヒャクジュウよん

イデンシをみると、そのセイタイのケイシツがわかるとされる。それをいじってさくもつをつくることもされている。そのイデンシはなにがつくったのか。それはそのセイタイだろう（もしくはそのソセン）。

いまでは、あたまにイシキがあるとされるが、わたしはサイボウにあるのではないかとかんがえている（●ロクジュウニ、『ス』キュウジュウよん）。どういうことか。アメーバにイシキがないとはいえなそうだからだ。それなりのイシケッテイをしているとおもわれる。そういうのをホンノウといったホウがいいかもしれないが。

イデンシもイシケッテイのケツカであろう。たとえば、はねをキンイロにするとケッテイしたところで、キンイロがでるシゲンがなかったら、そういうはねはできない。つまり、ゲンジョウであるシゲンにそって、イシケッテイされたわけだ。イデンシはそのキロクであろう。コウドなイシケッテイである。それをアメーバができるとすれば、サイボウにイシキがあるといってさしつかえないとおもう。

では、ノウはどういうしごとをするか。ひとつはウインドウにかかわることと、タクサンノイシキのシュウヤクチョウセイであろう。セイシンブンセキをはじめたフロイドは、ニンゲンにムイシキをハッケンしたといわれる。つまり、イシキとムイシキがあるということである。わたしにいわせれば、イシキはノウのはたらき、ムイシキはサイボウのはたらきだろう。イシキでかっぺにかんがえることはできるが、そもそもムイシキのチョ

ウセイをするはたらきなんだから、ムリはするなということである。

ロクジュウキュウ、『ス』ヒャクジュウゴ

コウセイはあたりのものをひきつけ、また、ひかりをハッする。このバランスがいいから、チキュウなどもまきこまれず、またはなれずキドウをたもてるのだろう。こうしたコウセイのひきつけるちからをわたしは「うずまきリョク」という（●よん、『ア』ヒャクロクジュウサン）。ギャクにおしだすちからを「ハンシンリョク」といっておこう。これらはタブン、コウセイのエイエンテキなキノウではなく、「もえているかぎり」のキノウだ。ひかりがよわくなれば、やがてワクセイは、コウセイにのまれるだろう。しかし、また、うずまきリョクもシゲンであるかもしれない。もえることでうずをまくのかとおもわれるが、そのネンリョウがなくなればもえないだろうし、うずをまかないとおもわれる。ワクセイがひきよせられるのは、うずまきリョクがのこったわずかなあいだだろう。では、そのネンリョウとはなにか。コウセイはケッコウなながさでもえているとおもわれる。ひかりをハッする。そのひかりのスイシンにしたがって、ギャクむきに、つまりコウセイのホウへ、ブッシツがながれるのではないか。これを「ハンリュウシ」といっておこう（●ロクジュウロク、『ス』ヒャクキュウ）。

ハンリュウシがコウセイにながれるあいだはコウセイがもえる。タブンウチュウクウカンに、すくなくともタイヨウケイでは、みちているのだろう。ひかりがとおくへいくわけだから、ハンリュウシがあるうちはうまくコウカンされるのだろう。しかし、ハンリュウシのないクウカンまでひかりがたどりついてしまったら、もうハンリュウシとのコウカンはできない。そうすると、そろそろコウセイのジュミョウですよとなる。

しかし、そのようでは、ウチュウのサイセイサンはむずかしい。だから、ハンリュウシをキョウキュウするなにかがあるとかんがえるとどうだろう。そのハンリュウシキョウキュウタイは、ひかりをすい、ギャクにハンリュウシをだす。かりにくろぼしといっておこう。コウセイが、ひかりをだすのにタイして、くろぼしはハンリュウシをだす。そういうコウカンなら、ウチュウはながつづきするのではないか。

ななジュウ、『ス』ヒャクニジュウゴ

タサイボウセイブツができたのは、「キョウリョクしよう」とするイシキ（●ロクジュウハチ、『ス』ヒャクジュウよん）がめばえたためとかいた。それゆえにそれぞれが「サイボウ」としていきはじめた。そのまえは、タンサイボウセイブツだったかもしれないし、ジツは、タンサイボウセイブツはタサイボウセイブツからドクリツしたのかもしれない。それはともかくなんらかのブッシツがあったのだろう。タンパクシツをつくれるジョウタイにあったかもしれない。

いずれにせよ、なんらかのエネルギーがあったのだろう。エネルギーがなかったらセイリツしない。トウをエイヨウにかえたり、タンパクシツをつくったりすることができた。

そういうエネルギーがあったということだろう。また、「ウゴキタイ」というイシキがあったから、セイブツがうごくようになったかもしれない。

ななジュウイチ、『ス』ヒャクニジュウロク

わたしは、「ウチュウのリサイクル」についてケンキュウしている。ウチュウはエイエンにつづくかがテーマだ。コウセイからひかりがはなたれ、それはやがてとおくへいく。しかし、ひかりがすすむのにも、あるブッシツとコウカンしながらすすむ（●ロクジュウキュウ、『ス』ヒャクジュウゴ）。そのブッシツはコウセイのネンリョウとなるだろう。しかし、そのブッシツがなくなるところまでひかりがトウタツすると、ひかりはすすめない。もっといって、ネンリョウとなるブッシツのかたまりがそこにあるとおもわれる（●ゴジュウロク、『ス』ゴジュウキュウ）。「ひかり」がテイオンになってヘンシツしてである。

それをとおりこしてひかりがすすむのはむずかしいとおもわれる。それはまるでナンマンブンのイチのおおきさのセイブツがみる、うちがわからみたチキュウである。つまり、ワクセイ、ウチュウ、か（わたしのかんがえた、ウチュウのそとのガイネン）と、カイソウコウゾウになっているわけだ。だから、かにはおおきなセイブツがいるかもしれないし、チキュウのうちがわにはちいさいいきものがいるかもしれない。だから、それぞれのリョウイキナイをうまくおさめていけば、モンダイないだろう。つまり、かのことは、かのいきものがかんがえるだろうと。そういうケンカイにいたった。

ななジュウニ、『ス』ヒャクサンジュウロク

まえにウチュウはカイソウコウゾウになっているかもしれないとかいた（●ななジュウイチ、『ス』ヒャクニジュウロク）。つまり、ウチュウのそとには、ウチュウがあるし、チキュウのなかにもチキュウがあるといったぐあいである。そうすると、ウチュウのウチュウには、おおきなニンゲンみたいないきものがいるカノウセイがあるし、チキュウのなかにもちいさなニンゲンみたいないきものがいるカノウセイがある。フツウのニンゲンのおおきさがせいぜいヒャクハチジュッセンチだから、おおきないきものはなしも、ちいさいいきものはなしもしづらい。タブン、ウチュウのハンブンくらいのながさのビルもつくれなければ、センチョウブンのイチのおおきさのパソコンもつくれないだろう。だから、キョクロンすると、そのおおきなひとみたいないきものとか、ちいさなひとみたいないきものにニンゲンがセキニンをもつことはできない。そういうわけだから、わたしは、そのハッケンで、ウチュウガイのタンサは、とりあえずシュウリョウするわけである。かれらがうまくやるしかないとなる。いってみれば、かみみたいなものをつつけてしまったともいえる。かみさまたちのモンダイは、かみさまたちがなんとかするしかない。

ウチュウのそとには、タブンそうそうにはとどかないが、チキュウのなかはとどくカノ

ウセイがある。だから、チキュウのナイブのケンキュウはできるだろう。しかし、それもやはり、ちいさいひとみみたいなものが、がんばるしかないだろう。そういうわけで、ひとつのカガクのおわりをケイケンしてしまった。もっといえば、「かみ」をハッケンした。シンセイなりヨウイキはおかすべからずというはなしににている。ケンキュウをしていたら、「かみ」にいきついたわけだ。それでどうするかは、わたしのモンダイだ。トクにキョウギとかギシキがあるわけでもない。そういうのは、かかわっているうちにできていくんだろう（そのソンザイがあるかもしかない）。そういうわけだから、どんな「かみ」であれ、あるとされるのはしょうがないとおもう。シュウキョウフンソウがあるのはザンネンだが。わたしは、そのおおきいニンゲンみたくないきものを「スペリオール」ということにする。ニンゲンのリョウブンでしっかりやらねばならないとおもうわけである。

ななジュウサン、『ス』ヒャクサンジュウなな

ニンゲンはイッショウあれば、チキュウジョウのいろいろなところをタンサクするとしても（ Netzなどはかんがえないことにする。）、タンサクできるとおもう。それはどういうことか。チキュウジンのジュミョウはチキュウのおおきさにあっているともいえないか。だから、ウチュウキュウのジュウニン（ひとかどうかはともかく。●ななジュウニ、『ス』ヒャクサンジュウロク）、スペリオールは、（セイカクなヒリツはわからないが。）サンジュウオクコウネンとかいきるのかもかもしれない。そうだとしたら、ニンゲンからみて、ほぼしないソンザイだろう。だから、かみのエイゾクセイがあるともいえる。そのスペリオールたちはいろいろなことをしているだろう。だからヨゲンシャがときたまあらわれるのではないか。そうかんがえると、ニンゲンはちっぽけなきものである。しかし、チキュウナイにすむちいさなひとみたくないきものからみれば、チキュウジンはソウトウながくいきるソンザイとおもわれるだろう。あくまでもカセツであるが。

ななジュウよん、『ス』ヒャクよんジュウ

ウチュウのチュウシンがなぜもえるのか。なぜ、「ビッグバン」がおこるのかもいい。そのテンには、サンソか、それにジュンずるブッシツがあったのだろう。なにもなければ、ヘンカはおきないというわけである。サンソがひきのばされてコウオンになり、そしてハッカしたと（●よんジュウよん、『ス』ニジュウ）。なにがサンソをひきのばすのか。わたしがおもうにカイテンである。もえるテンか、そのまわりがまわっていたと。エンシンリョクによってサンソがテイアツになりハッカしたとかんがえられる。つまり、「ビッグバン」のまえには、サンソがあり、そのテンか、そのまわりがカイテンしはじめたということだ。それは、ウチュウのはじまりにかぎらず、いろんなところでおこったかもしれない。

ひよっとしたら、カイテンがとまると、コウセイはもえなくなるかもしれない。そういう

しくみなのかもしれない。ゲンシもエネルギーをもっているとかがえるかわからないが、カイトンがとまるとなにかヘンカがおこるかもしれない。「カイトン」というのは、ウチュウ（とそのそとがわ）のキョウツウキバンのようにおもわれる。「メリーゴーラウンド」とはよくいったものである。なぜ、まわりだしたかだが、ゲンシはまわるようにコウセイされているらしい。だとしたら、しょうがないのである。そういうジョウケンをケンキュウするとしたら、これまでみたことがないものをさがすしかないだろう。

ななジュウゴ、『ス』ヒャクよんジュウイチ

ロケットなどは、ネンリョウをつかってスイシンする。ネンリョウがきれたらスイシンできない。そこで、サンソをネンリョウにつかったらどうだろう。さきにいったように、テИАツのサンソである（●ななジュウよん、『ス』ヒャクよんジュウ）。しかし、それをそとにハウシュツしてしまったら、なくなっておわりである。うまく、リサイクルができるようなキカンがのぞましい。しかし、キカンをとじてしまうと、フンシャによるスイシンリョクをえられない。

ところで、それはなにかにいていないか。そう、ドウブツのコウセイである。サイボウがサンソをつかいカツドウする。そのあとは、ニサンカタソになって、それをショクブツのちからをかりて、またサンソにする。だから、ニンゲンなどのドウブツもサンソをつかう、「もやす」でただしのである。そうすると、まえに、ドウブツにとってのエネルギーは、タンスイカブツとかいたが（●ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）、（そういうメンもあるが、）そうではない。コウセイなどとドウヨウにサンソなのだ。それだと、

イー（エネルギー）イコール オーツー

となる。つまり、サンソのリョウがキドウリョクをきめるのである。ジカンについてもそうだ。

ティ（ジカン）イコール ダブリュ（シツリョウ）ブンの イー（エネルギー）

だから（●ロクジュウサン、『ス』ヒャクよん、ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン、ゴジュウイチ、『ス』よんジュウイチ、よんジュウシチ、『ス』サンジュウニ、よんジュウよん、『ス』ニジュウ、ニジュウサン、『オ』ハチ、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）、ティイコール ダブリュ ブンの オーツーであろう。つまり、サンソがなかったらジカンはすすまない（ニンゲンがらみでのなしかもしれないが。）。

マイナスになることもそうそうないだろう。タンジュンにコウゾクキヨリをのばしたかったら、シツリョウをかるくして、サンソをタクサンつむようだろう。オーツーからシキをセイリすると、

オーツー イコール エル (ウンドウ、ジカン イコールエルより。●ジュウゴ、『よ』サン
ジュウニ) かける ダブリュ

になる。つまり、サンソとは、キドウリョクになって、おもさもあるということになる。
サイキンのロボットは、デンキでうごくものがおいから、かならずしも、イドウにオー
ツーをつかうわけではなさそうだ。

ななジュウロク、『ス』ヒャクよんジュウよん

ジカンイコール シツリョウ ブンの エネルギー

のはなしをした (●ななジュウゴ、『ス』ヒャクよんジュウイチ、ロクジュウサン、『ス』
ヒャクよん、ゴジュウサン、『ス』よんジュウよん、ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン、
ゴジュウイチ、『ス』よんジュウイチ、よんジュウシチ、『ス』サンジュウニ、ニジュウ、
『ス』ニジュウサン、『オ』ハチ、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)。

このエネルギーとは、ほしがもえるのにヒツヨウなサンソとおもわれるから、

ティ (ジカン) イコール ダブリュ (シツリョウ) ブンのオーツー (サンソ)

となる。つまり、ジカン (うごき。ティ イコールエル (うごき) より。●ジュウゴ、『よ』
サンジュウニ) は、サンソがなりたたせているとなる。ニンゲンだって、サンソがなけ
れば、ただのかたまりだから、これはわかるだろう。そういうわけで、サンソのあると
ころには、なにかがあるかもしれないとなる。ジリキでうごけるなにかだ。サンソがホ
ウフにあれば、ニンゲンなんかより、ながいきするセイブツがいるかもしれない。サン
ソとは、そういうキソテキなブッシツのようにおもわれる。

ななジュウなな、『ス』ヒャクロクジュウロク

ウチュウのそととチキウのなかのはなしをした (●ななジュウサン、『ス』ヒャクサン
ジュウなな)。そこにはニンゲンのようないきものが、それぞれのおおきさでいるかもし
れないというはなしだ。チキウでは、いま、カガクギジュツがハッタツしたというが、
せいぜいチキウジンがみえるテイドにしかカガクはハッテンしないだろう。みえない
ものが「ある」といっても、セツクがむずかしいからだ。

ブッシツをコウセイするのは、ゲンシだと、わたしがチュウガクセイのときにおそわっ
たが、いまはもっとこまかいのはなしをしていたりする。しかし、みえるテイドにしかハッ

テンしないだろう。よりちいさなチキュウのようなものにすんでいるなにかが、ゲンシイカのコマかいタンイをみて、ゲンシは〇〇でできているというだろう。もっとナンダンカイもコマかくブンセキするかもしれない。だから、コマかいもののカガクは、タブンチキュウのなかにすんでいるなにかには、かなわない。ウチュウのそとについては、ウチュウのそとにすむなにかがブンセキするんだらう。

そういうわけで、チキュウジンはせいぜいチキュウのうへと、ウチュウをみるだけだろう。なんでもしているわけではない。そういうわけだから、つねに「かみさま」がでてくるヨチはあろう。

ななジュウハチ、『ウンドウはすべてエレクトリック。(イカ、「ウ」)』ジュウニ

ひかりは Netz をもっていたりもする。ちょっとまえにはやったシンガタデンキュウは、あえて、Netz をへらして、あかるさをふやしたかたなのだろう。タイヨウケイのワクセイは、そとがわをまわっているものほど、オンドがひくいとされる。ジツカンとしてもそうだ。

たいたひのちかくにいればあついが、はなれるとあつくなくなる。だから、タンジュンにいうと、

ダブリュエー (あたたかさ) イコール エルアイ (ひかり) わる ディ (キヨリ)

となる (ただし、ヒョウジュンテキなひかりのばあいだ。)

しかし、あるキヨリをすすむことにより、あたたかさがうしなわれるかはうたがわしい。ひかりがあたたかさをうしなわないでとどくとするなら、

ダブリュエー イコール エルアイ

だということになる。とおくのワクセイだと、ひかりのとどくヒンドがひくいというみかただ。ジツカンとしてはゼンシャだろうか。しかし、Netz のコウカン (すすむさきのブツツと) とかんがえれば、コウシャといえるだろうか。また、ひかりのシュルイのモンダイもある。

ななジュウキュウ、『ウ』ニジュウイチ

ダブリュエー (あたたかさ) イコール エルアイ (ひかり) わる ディ (キヨリ)

とかいた (ただし、コウセイがハツするようである。●ななジュウハチ、『ウ』ジュウ

ニ)。これがただしければ、ウチュウのそとがわは、つめたいはずである（●ゴジュウロク、『ス』ゴジュウキュウ）。

それで、わたしは、ウチュウのそとがわは、コタイだとかんがえる。つまり、なかからみたチキュウのようにである。それとドウヨウに、チキュウのうちがわにも、ウチュウのようなものがひろがるとかんがえる（●ななジュウイチ、『ス』ヒャクニジュウロク）。イチブンでいえば、ウチュウとは、カイソウコウゾウになっている。ということである。

ハチジュウ、『ウ』サンジュウよん

ダブリュエー（あたたかさ）イコールエルアイ（ひかり）わる ディ（キヨリ）

とかいた（●ななジュウキュウ、『ウ』ニジュウイチ、ななジュウハチ、『ウ』ジュウニ）。しかし、ひかりがすすんでいくことにおとろえがないとすれば、

ダブリュエー イコール エルアイ

となる。だとすると、ひかりのとどかないところは、

ダブリュエー イコール レイ

となる。そういうわけで、そういうところにはコタイがあるだろう。

ハチジュウイチ、『ウ』サンジュウハチ

ウチュウのそとがわに、コタイのかたまりがあるかもしれないというはなしをした（●ハチジュウ、『ウ』サンジュウよん、ゴジュウロク、『ス』ゴジュウキュウ、ゴジュウよん、『ス』ヨンジュウハチ）。

ひかりすらもこおりつくほどのテイオンではないか。そこにたまったひかりのコタイが、あたらしくトウタツするひかりによってねっせられ、エキタイ、キタイとなるのではないか。そのケッカ、ウチュウのうちがわにむかって、コウセイのネンリョウとなれば、ウチュウは、またジュンカンする。

ハチジュウニ、『ウ』サンジュウキュウ

ウチュウのそとがわから「ガスカしたひかり」が、ウチュウのうちがわにながれているかもしれない。とかいた（●ハチジュウイチ、『ウ』サンジュウハチ、ロクジュウキュウ、『ス』ヒャクジュウゴ、ロクジュウロク、『ス』ヒャクキュウ、ロクジュウゴ、『ス』ヒャクハチ）。なぜ、そういうことがおこるか。わたしは、ブッシツのうごきは、キホンテキ

に「コウカン」だとおもうからである。いってみれば、

エル（うごき）イコール イーエックス（コウカン）

である。

さきのレイでいうと、ひかりとガスカしたひかり（ダークライトということにする。）が、コウカンされる。それによって、ウチュウがながもちするのではないか。

ハチジュウサン、『ウ』よんジュウ

エル（うごき）イコール イーエックス（コウカン）

とかいた（●ハチジュウニ、『ウ』サンジュウキュウ）。そうであれば、まえにかいた（エルイコール イー [エネルギー] わる ダブリュ [シツリョウ]、ティ [ジカン] イコール イー わる ダブリュより。●ななジュウロク、『ス』ヒャクよんジュウよん、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）ように、

エル イコール ティ

である。これから、

ティ イコール イーエックス

となる。

つまり、ティをセイリツさせるためには、

ティイコール イーわる ダブリュ

ゆえに、エネルギー、オモサがヒツヨウで、ティとコウカンはトウカとなる。

ニンゲンのことばのおもさは、あまりはかられないが、カガクブッシツとすると、なんグラムかだろう。そこにエネルギーがあり、コウカンカノウだとすると、ジカンのカンネンができるだろう。ニンゲンは、エネルギーをもっているし、ことばをコウカン（たべることもだ。）するから、ジカンをニンシキすることがカノウだったのだろう。

ジカンがないと、シンポすることがないから、コウカンしないようなセイブツはほろびただろう。

ハチジュウよん、『ウ』よんジュウイチ

ジカンとコウカンについてかいた（●ハチジュウサン、『ウ』よんジュウ）が、これは、セイブツであるためのジョウケンかもしれない。つまり、イチ、エネルギーがあって、ニ、おもさがあって、サン、コウカンがカノウであること。ジリツテキなコウカンができるところが、ほかのものどちがうだろう。

ニのおもさがあるては、みたせるものがおおいだろう。しかし、イチのエネルギーは、ほかからちからがかかるばあいもあるが、なかなかみたせるものはすくない。サンのコウカンカノウとなると、もうめずらしい。

エーアイののっているパソコンも、それにちかいがジョウホウをコウカンするだけだ。だから、セイブツをテイギするには、「エネルギーセイのもの」をコウカンするといったホウがいいかもしれない。

このジョウケンをセイリしていくと、「あなたは、

ティ（ジカン）イコール キュウジュウイチ（ジュミョウがキュウジュウイツサイ）

ですよといえるかもしれない。

ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ

エル（ウンドウ）イコール イーエックス（コウカン）

とかいた（●ハチジュウニ、『ウ』サンジュウキュウ）。

ニンゲンもエルがカノウで、したがって、なにかをコウカンしてうごいているだろう。たべものやガスなどである。これらは、カガクブッシツといえるだろうし、ばあいによっては、デンキシングウショリだろう。もし、そうであるなら、

エル イコール イーエル（デンキ）

である。

それから、デンキをもつものはうごくとなる。シィディスプレイヤーもうごいているし、テレビもヒョウジをかえる。

もし、ワクセイのカツドウをデンキでとらえれば、デンキがあるゆえにうごくともかんがえられる。つまり、ジュウリョクはデンキというわけである。

ジー (ジュウリョク) イコール イーエル

だ。

また、

ジー イコール エル

でもある。

これは、ジュウリョクにひかれるというはなしだから、わかりやすいであろう。

ハチジュウロク、『ウ』よんジュウなな

タイヨウには、ジュウリョクがあるといわれる。わたしはそれをうずまきリョクといった (●よんジュウ、『オ』ヒャクゴジュウロク、よん、『ア』ヒャクロクジュウサン)。そのかわりに、そとがわへむかってひかりをだす。ということは、ジー (ジュウリョク) とエルアイ (ひかり) のコウカンといえそうだ。

しかし、ジーがつよまれば、エルアイもつよまるわけではない。もえつきたあのように、ひかりをださないこともあるだろう。だから、ジーがつよまれば、イーエル (デンキ) がつよまるとはいえそうだが (●ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ)、ジーがつよまれば、エルアイもつよまるとはいえなそうである。

ハチジュウなな、『ウ』よんジュウハチ

タイヨウは、ジュウリョクをもち、かわりにひかりをだすとかいた (●ハチジュウロク、『ウ』よんジュウなな、ロクジュウキュウ、『ス』ヒャコジュウゴ)。そのようにひかりはジュウリョクからリダツするセイノウをもつ。それならば、ひかりをつかって、ジュウリョクからリダツするなにかもつくれるだろう。

ハチジュウハチ、『ウ』ゴジュウニ

ジー (ジュウリョク) イコール イーエル (デンキ)

のはなしをした (●ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ)。

もし、それがただしければ、ジュウリョクをつかったヒコーキができることになる。デン

キでとぶヒコーキはまだすくないが、リクツのうえではそうなる。しかしながら、ジュウリョクはそれなりのシゲンである。だれかがチキュウからはじきとばされるのでは、しょうがない。だから、これはギジュツテキにはカノウかもしれないが、シャカイテキなモンダイをはらんでいるといえるだろう。

ハチジュウキュウ、『ウ』ゴジュウサン

イーエル（デンキ）イコール ジー（ジュウリョク）

のはなしをした（●ハチジュウハチ、『ウ』ゴジュウニ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ）。

コウセイで、ジュウリョクがひきよせて、ひかりがはなたれるから（●ハチジュウなな、『ウ』よんジュウハチ、ハチジュウロク、『ウ』よんジュウなな、ロクジュウキュウ、『ス』ヒャクジュウゴ）、イーエルとエルアイ（ひかり）は、ヒョウリのカンケイといえそうだ。たとえば、デンキが、ビーからエーホウコウにはしれば、ひかりがエーからビーホウコウにはしとすることができそうだ。まあ、セツケイによるだろう。ジッサイ、タイヨウコウハツデンキもつくられているし、デンキュウもつくられている。

イーエル イコール ジー

だから、ウチュウのごみをソウジするのに、デンキをつかえばいいかもしれない。ジーでごみをあつめるわけである。なにかのセイヒンにつかえるギジュツだろう。

キュウジュウ、『ウ』ロクジュウよん

エル（ウンドウ）イコール イーエル（デンキ）

のはなしをした（●ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ）。

うごくということは、デンキカツドウというわけだ。もうショウメイされているが、デンキをつかえば、ロボットはうごく。ギャクもまたたしかなのだろう。フウシャがうごく、デンキがたまるといふぐあいである。もっとキョクタンにいうと、ニンゲンのうごきもデンキになるだろうし（そもそもデンキでうごいている。）、ゲンジョウ、てまわしハツデンがおおいが、ふることでハツデンもできるだろう。

キュウジュウイチ、『ウ』ロクジュウゴ

イーエル（デンキ）のはなしをした（●キュウジュウ、『ウ』ロクジュウよん）。イーエルをつかうと、ひかりがでるソウチがある。イッパンにデントウといわれる。シキにすると、

イーエル たす ○○（なんといえよいだろう。）イコール エルアイ（ひかり）

となる。つまり、○○があれば、デンキは、ひかりにかえられるし、ひかりも、○○があれば（

エルアイ ひく ○○ イコール イーエル

）、デンキになる。それは、ジッサイにタイヨウコウハツデンがある。つまり、

エル（ウンドウ）イコールイーエル（●キュウジュウ、『ウ』ロクジュウよん、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ）

だから、

エル イコール エルアイ ひく ○○

となるわけである。

ようするに、○○があれば、ひかりは、ウンドウにかえられるということだ。ギャクに、○○があれば、ウンドウもひかりにかえられる。その○○とはなんだろうか。またかんがえてみたい。

キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク

エル（ウンドウ）イコールイー（エネルギー）わる ダブリュ（シツリョウ）

とかいた（●ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）。このシキからいえることは、あるウンドウをおおきくするには、ふたつのやりかたがあるということだ。ひとつは、エネルギーをふやすことだ。たとえば、ロケットにタクサンネンリョウをつめばいい。もうひとつは、シツリョウをへらすことだ。ロケットでい

えば、キタイをかるくすればいい。

ところで、

エル イコール イーエル (デンキ)

だから (●キュウジュウイチ、『ウ』ロクジュウゴ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ)、マンガンをつかったデンキもウンドウがカノウだろう。

フツウは、あるキョクへむかうという。こうしたウンドウをたかめたければ、さきにいったように、エネルギーをたかめるか、つまりエネルギーのおおきいブッシツをつかうか、シツリョウをかるくすれば (かるいブッシツをつかえば) よい。

つまり、スイソがあるシュルイのブッシツでは、もっともかるいらしいから、そのなかではもっともウンドウがおおきくなるかもしれない (エネルギーがおおきいものもある)。そうしたホウが、ウンドウをふやすにはコウリツテキだろう。たとえば、コンピューターのケイサンである。そういうのをコウセイノウカしようとおもったら、もっとシツリョウのちいさなブッシツをつかったホウがいいかもしれない。だからそういうもののケンキュウがすすむ。それがセンタンのブツリガクであろう。

キュウジュウサン、『ウ』ロクジュウハチ

まえにいったように (

エル [ウンドウ] イコールイー [エネルギー] わる ダブリユ、

ティ [ジカン] イコール イー わる ダブリユより。

●ハチジュウサン、『ウ』よんジュウ、ななジュウロク、『ス』ヒャクよんジュウよん、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)、

ティ イコール エル

である。

ということは、ウンドウをマイナスにすれば、カコへのジカンリョコウがカノウになるとなる。タンジュンにいえば、むかしいところにもどればいいわけである。

しかし、それを「カコにいった。」というひとはいない。ほかのなにかがマイナスに

なっていないからだろう。たとえば、ビーさんもつきあって、むかしいところにもどれば、カコへのリョコウといえるかもしれない。そうやって、「ジカンリョコウ」というのは、ひとりのイシでなく、タクサンのなにかのキョウリョクがなければ、タッセイできないといえそうだ。

キュウジュウよん、『ウ』ロクジュウキュウ

まえにデッドロックのはなしをした（●ロクジュウよん、『ス』ヒャクなな、ロクジュウサン、『ス』ヒャクよん、よんジュウよん、『ス』ニジュウ）。デッドロックとはまわりからのジュウリョクがつりあって、うごかないほしである。そこでは、

エル（ウンドウ）イコール レイ、

エル イコールティ（ジカン）（●キュウジュウサン、『ウ』ロクジュウハチ、ハチジュウサン、『ウ』よんジュウ、ななジュウロク、『ス』ヒャクよんジュウよん、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）

ゆえに、

ティ イコール レイ

である。

つまり、ジカンがながれないほしである。そこをしらべれば、かつてのいきもののゲンケイなどがみつかるかもしれない。ジカンがながれないからだ。また、そこにはいっていけば、ニンゲンやドウブツなども、いつまでもホゾンされるとおもわれる。

キュウジュウゴ、『ウ』ななジュウ

うみにはなみがある。それは、あまりとまったりしない。うごきつづけている。つまり、エル（ウンドウ）なわけだ。ハツデンをねらうたちばかりは、それはカッコウのうごきである。つまり、なみがたつブンは、デンキにかえられるということだからだ。しかし、それをダイダイテキにやると、サーフィンができなくなる。そういうモンダイもある。

キュウジュウロク、『ウ』ななジュウイチ

ウンドウとはひとにとっては、はじめられることだろうが（おどりをおどれるだろう。）、
イッポウで、はじまりだったかもしれない。わたしにいわせれば、

エル（ウンドウ）イコール イーエル（デンキ）

だ（●キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、キュウジュウイチ、『ウ』ロクジュウゴ、
ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ）。

つまり、ウチュウか、もっとおおきななにかのはじまりには、デンキがおこった。それ
によって、ウンドウがはじまったといえそうなのである。

トウショのウンドウはガスやいしなどのイドウであっただろう。つまり、デンキやウン
ドウがカクサンした。それがつづき、チキュウでウンドウするようなセイタイができた。
それは、ウンドウのもと、「モデル」があったからであろう。ちがういいかたをすれば、チ
キュウにセイメイをはじめさせるためのブッシツとウンドウ（デンキ）があつまったか
らだろう。つまり、セイメイをハッテンさせるには、デンキがヒツヨウだということだ。
そういうシゲンとデンキがあつまるほしをみれば、セイブツのようなものがカンソクで
きるかもしれない。セイブツはウンドウをみて、ウンドウをはじめたと。

キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ

ウンドウは、

エル（ウンドウ）イコール イー（エネルギー）わるダブリュ（シツリョウ）

ではかれるとかいた（●キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、ゴジュウニ、『ス』よん
ジュウサン、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）。

それがただしいとすれば、ウンドウのおおきをきめるのに、ふたつのホウホウがある
（●キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク）。

ひとつはウンドウするもののシツリョウをへらすことである。だから、よりちいさなブッ
シツをさがす。これはわかるはなしだ。イッポウ、もうひとつは、エネルギーをふやす
ことである。よりおおきなエネルギーをつかえば、ひかりよりもはやいウンドウがカノ
ウになるかもしれない。

たとえば、ひかりは、ヤクサンジュウマンキロメートルを、イチビョウですすむという。
かりに、サンジュウマンイコール ロクジュウマン わる二とする。そのエネルギーのブ
ンをヒャクニジュウマンにすれば、ニバイのウンドウになるだろう。

ただそのエネルギーをどうするかというモンダイはある。

エル イコール イーエル (デンキ)

だから (●キュウジュウロク、『ウ』ななジュウイチ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、キュウジュウイチ、『ウ』ロクジュウゴ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ)、タンジュンにデンキをつよめればともいえる。

しかし、それによって、

エル イコールジー (ジュウリョク) (●ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ)

のジーをハッセイさせてしまうカノウセイはある。

だから、カンタンではないだろう。いってみれば、タイヨウケイなどをぶっこわさないようにやるべきだろう。

キュウジュウハチ、『ウ』ハチジュウイチ

みずとあぶらという。なにかのヨウキにみずとあぶらをいれても、それらは、ブンリする。つまり、おたがいがむかうホウにいくわけだ。それでいえば、「ひかり」はどこへいくのだろう。やはり、いくべきところへいくのではないか。

それをオウヨウすると、スイシンキカンができる。たとえば、ウチュウで、みずのなかにスイソをいれれば、スイソは、はなれようとしてそとにでようとしなないか。それをうまくセツケイすれば、スイシンキカンであろう。なるべく、ウチュウでもチョウタツでできるブッシツでそれをやればいいだろう。

キュウジュウキュウ、『ウ』キュウジュウ

コウセイはもえて、ひかりをはなっている。あるはなしによると、「スイソ」がもえている。それなら、ひかりというのは、スイソがらみでハッセイするものだということになるだろう。

イッポウ、デンキと、てつなどをつかうとデンキュウがひかる。だとしたら、ひかりは、デンキと、てつでできるともかんがえられる (●キュウジュウイチ、『ウ』ロクジュウゴ)。シキをかえると、デンキは、ひかりからてつをひいたものといえるかもしれない。ようするにコウタクのないひかりがデンキであるということだ。そういうことなら、ひかりからデンキがつくれるであろう。もっと言うと、ひかりからデンキをぬくと、てつができるのではないか。

ヒャク、『ウ』ヒャク

まえにかいたように、

イーエル（デンキ）イコールエル（ウンドウ）（●キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キュウジュウロク、『ウ』ななジュウイチ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、キュウジュウイチ、『ウ』ロクジュウゴ、よんジュウゴ）、

イーエル イコール ジー（ジュウリョク）

である（●ハチジュウキュウ、『ウ』ゴジュウサン、ハチジュウハチ、『ウ』ゴジュウニ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ）。ウンドウは、デンキにできるということだ（デンキカツドウのケッカともいえるかもしれない）。

つまり、ほしからデンキをとることもカノウであろう（うごきがあるなら）。ゲンシもよくみると、コウセイとワクセイのようなコウゾウになっているらしい。それなら、ゲンシからデンキをとることもかのうだろう。ただアンゼンセイをかんがえなくてはならないかもしれない。

ヒャクイチ、『ウ』ヒャクイチ

まえに、

イー（エネルギー）イコール オーツー

とかいた（●ななジュウゴ、『ス』ヒャクよんジュウイチ）。これは、チキュウジンならわかるはなしだ。

エル（ウンドウ）イコール ダブリュ（おもさ）ブンのイー

だから（●キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロ

ク、ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)、

エル イコール ダブリュ ブンの オーツー

というシキになる。

ほしのウンドウも、オーツーでセツメイできるが、かならずしもオーツーがつかわれているかはわからない。スイソをエネルギーとしているなら、スイソをエネルギーとするセイメイもカノウだろう。いまのところ、それは、みつかっていないから、オーツーでセツメイするがいいのかもしれない。

ヒャクニ、『ウ』ヒャクニ

まえに、

オーツー イコール エル (ウンドウ) かける ダブリュ (おもさ)

とかいた (●ななジュウゴ、『ス』ヒャクよんジュウイチ)。

エル イコールティ (ジカン) (●キュウジュウよん、『ウ』ロクジュウキュウ、キュウジュウサン、『ウ』ロクジュウハチ、ハチジュウサン、『ウ』よんジュウ、ななジュウゴ、『ス』ヒャクよんジュウよん、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)、

オーツー イコール ティ ダブリュ

である。

つまり、ウチュウのジュミョウ (というか) は、オーツーとおもさでケイサンできる。

ティ イコール ダブリュ ブンの オーツー

をケイサンすればいい。ウチュウのシステムナイにオーツーがのこりつづけるなら、ほぼジュミョウはムゲンだし、なにかサンソカゴウブツにかわるなら、カンゲンしてやれば、ほぼムゲンとなる。コウシャだとしたら、クフウするヒツヨウがあるだろうか。

ヒャクサン、『ウ』ヒャクよん

ウチュウはウンドウしている。チキュウジョウのものもウンドウしている。わたしにいわせれば、それは、エル（ロコモーション、ウンドウ）だ。また、エルとはティ（ジカン）でもある（●ヒャクニ、『ウ』ヒャクニ、キュウジュウよん、『ウ』ロクジュウキュウ、キュウジュウサン、『ウ』ロクジュウハチ、ハチジュウサン、『ウ』よんジュウ、ななジュウロク、『ス』ヒャクよんジュウよん、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）。

だから、ジカンリョコウはカンタイではない（●キュウジュウサン、『ウ』ロクジュウハチ）。

たとえば、センキュウヒャクハチジュウネンイチガツみっかにジカンリョコウしたかったら、カンケイするものを、センキュウヒャクハチジュウネンイチガツみっかにハイチされていたイチにおいてやらなければならない。カンタンなレイでいうと、トウジをサイゲンしたエイガセットだ。ひともそうだし、ドウブツもそうだ（ゲンミツにいうと。ワクセイのイチも、そのイチにしなければならない。）。そういう「セット」づくりにヤクシャなどがキョウリョクしてくれるかはわからないが、すべてのものがトウジとおなじイチで、すじがきもおなじなら、それはジカンリョコウとよべないか。つまりハイチのモンダイということである。

しかし、カンベキなサイゲンなどむずかしいだろう。だから、キュウジュッパーセントおなじとか、ななジュッパーセントのセイカクセイとかになるだろう。そのどこまでセイカクであれば、「ジカンリョコウ」とよべるであろうか。

トウケイでは、キュウジュウゴパーセントとかキュウジュウキュウパーセントとかおなじなら、おなじというようにあつかう。それにあわせると、ジカンリョコウはほぼムリであろう。つまり、センキュウヒャクハチジュウネンイチガツみっかにジカンリョコウした。ではなくて、センキュウヒャクハチジュウネンイチガツみっかっほいに、ジカンリョコウしたのである。つまり、カジュウジュッパーセントのジューステイドにしかあじわえないということだ。

ヒャクよん、『ウ』ヒャクゴ

みずには、コタイ、エキタイ、キタイのすがたがある。オンドがひくければ、コタイだし、オンドがたかければ、キタイになる。また、ひとは、キオンがニジュウドとかいって、さむいだのあついだのいう。さむかったら、シツナイでは、あたたかいクウキをおくってもらったり、あつかったら、つめたいクウキをおくってもらったりする。

イッポウで、シツドというものもある。クウキにスイブンがおおくふくまれば、シツドがたかいし、すくなければ、シツドがひくいという。クウキのオンドをかえるエアコンがチュウモクされて、シツドのことはあまりチュウモクされない。シツドもキオンのひくい、たかいにエイキョウをあたえるだろう。シツドかひくければ、みずはコタイやエキタイのジョウタイであろうから、キオンはひくめになる（みずはレイドでコタイに、

ギャクドをしたまわるとエキタイになるといわれている。)

ギャクにシツドがたかければ、キタイのジョウタイをとりやすいであろうから、キオンはたかくなる。そういうわけだから、ふゆにシツドをあげればあったかいし(ストーブのうえに、みずのはいったやかんをおくだろう。)、なつにシツドをさげれば、すずしいということになる。エアコンとシツドチョウセイのどちらがやすいかというモンダイである。

ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ

エル(ウンドウ)イコールイーエル(デンキ)

のはなしをした(●ヒャク、『ウ』ヒャク、キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キュウジュウロク、『ウ』ななジュウイチ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、キュウジュウイチ、『ウ』ロクジュウゴ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ)。

それならば、ウンドウというのは、「ワット」であらわせる。もし、「ワット」でなく、わたしのペンネームでいえるとしたら、ニジュウエイゾウとかのいいかたになる(タブン、「エイ」のホウがいいだろう。)

また、

エルイコールジー(ジュウリョク)

でもある(●キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ)。

だから、ジョウリョクも、「ワット」であらわせる。さらに、

エルイコールティ(ジカン)

であるから(●ヒャクサン、『ウ』ヒャクよん、ヒャクニ、『ウ』ヒャクニ、キュウジュウよん、『ウ』ロクジュウキュウ、キュウジュウサン、『ウ』ロクジュウハチ、ハチジュウサン、『ウ』よんジュウ、ゴジュウ、『ス』ヒャクよんジュウよん、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)、ジカンも「ワット」であらわせる。

ヒャクロク、『ウ』ヒャクジュウ

タイヨウのまわりをまわるチキュウのシュウカイキドウがかわったとする(たとえば、イチニチブンおそくなったとかである。)。そのときに、ふたつのちびばがある。ひと

つはイチネンサンビャクロクジュウゴニチのこよみにあわせるたちば、キュウレキもある。もうひとつが、とけいなどのすすみかた、ようするに、ブツリハウソクにあわせることである。

いまのところ、こよみはネンチュウギョウジにもちいられるから、そちらにあわせてチョウセイすることがヨソウされるが、もし、ニンゲンがウチュウのどこかにすむようになれば、チキュウジョウのツゴウだけできめるわけにはいかない。だから、ブツリテキナイチビョウのながさがダイジになるのである。そういうわけだから、いまのデンパどけいは、あまりすぎではない。かってにチキュウジョウのツゴウにあわせてホセイするからである。

ヒャクナナ、『ウ』ヒャクジュウイチ

イゼンにヘヤにショクブツをおいたことがある。みずとひかりとニサンカタンソがあれば、そだつとおもっていたが、そだたなかった。

イッポウで、おふくろがベツのところにおいたはなはそだっている。そだてるニンゲンのソヨウかとおもったが、ひとつおもいあたることもある。それは、ひかりのシュルイである。わたしのヘヤはケイコウトウ。おふくろがおいたところはハクネツデンキュウである。

そのふたつのどこがちがうか、タブン、ヒキンゾクのザイリョウをひからすか、キンオクケイのザイリョウをひからすかであろう。つまり、ヒキンゾクのひかりでは、ショクブツがそだたなくて、キンゾクケイのひかりなら、ショクブツがそだつということであろう。ようするに、ハクネツデンキュウのホウが、タイヨウのひかりにちかいわけである。いまのジュウタクのオクナイはケイコウトウや、シンガタデンキュウがほとんどであろう。シンガタデンキュウでは、ためしたことがないが、そういうリユウで、ニンゲンが、ショクブツからはなれているさまがわかる。たしかに、ケイコウトウなら、ショルイがやけないなどのリテンがあるんだろう。しかし、ものはモクテキにあわせてえらぶべきである。ハクネテデンキュウはやはりいいということだろう。

ヒャクハチ、『ウ』ヒャクジュウよん

ニンゲンのイシキがサイボウにあるのではというはなしをした（●ロクジュウハチ、『ス』ヒャクジュウよん、ロクジュウニ、『ス』キュウジュウよん、ロクジュウイチ、『ス』キュウジュウサン、ロクジュウ、『ス』キュウジュウイチ、ゴジュウキュウ、『ス』ハチジュウロク、ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン）。

タンサイボウドウブツでも、イシキがありそうだ（キケンをさけたりするだろう。）。それなら、イシキはサイボウにあってもおかしくない。そういうはなしだ。しかし、なぜイシキができたのか。

イシキも、カガクブッシツのハンノウ、つまり、ウンドウであろう。イシキとは、ものの

ウンドウということであれば、ウチュウにも、イシキがあってもおかしくない。いろいろなブッシツがあるだろう。すくなくともモデルになったのではないか。もし、ウチュウにイシキがあるとすれば、ドウショクブツがそれぞれイシキをもつというのはうたがわしくなる。どういうことか。それは、チキュウゼンタイをイシキがおおっていて、ドウショクブツも、それにあわせているカノウセイがあるからだ（ズサン）

しかし、いまのジョウシキテキなはなしでは、イシキはドウショクブツそれぞれがもっているといわれるだろう（ズよん）。

まともにもイシキをもつし、コモイシキをもつというかんがえかたもできるだろう（ズゴ）。

パソコンネットワークとハードディスクのカンケイのようである。アップロードもできるし、ダウンロードもできる。ローカルでショリすることもできるというわけである。

ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクジュウゴ

エル（ウンドウ）イコール ティ（ジカン）

である（●ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ、ヒャクサン、『ウ』ヒャクよん、ヒャクニ、『ウ』ヒャクニ、キュウジュウよん、『ウ』ロクジュウキュウ、キュウジュウサン、『ウ』ロクジュウハチ、ハチジュウサン、『ウ』よんジュウ、ななジュウロク、『ス』ヒャクよんジュウよん、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）。

イチキログラムのものを、イチキロメートルうごかすちからをイチイーアイ（●ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ）といってもいいかもしれない。

チキュウジョウだと、ジュウリョクのエイキョウをうけるので、イチイーアイのちからでは、それほどイドウできないであろう。エルについてかんがえると、ブッシツのうごきなわけだから、トウゼン、そのまわりのオンドがひくければ、ウンドウはにぶくなる。また、ギャクにあったかければ、ウンドウはカップツになる。とすれば、

エル イコール ダブリュエー（あたたかさ）

といえるかもしれない（すくなくとも、カンスウにはできるとおもう。）。

そうだとしたら、ティもまた、ダブリュエーなわけである。また、イーエル（デンキ）も、ダブリュエーとなる。そして、ジー（ジュウリョク）も、ダブリュエーだろう。オンドがたかいホウが、ジカンがながい。オンドがたかいホウが、デンリョクがつよい。オンドがたかいホウが、ジュウリョクがつよいとなる。

「あたまをひやせ。」というけれど、そのホウが、ウンドウがすくなくなり、ジカンがすくなくなり、デンリョウがよわくなり、ジュウリョクがよわいというわけだ。

エル イコール イー（エネルギー）わる ダブリュ（シツリョウ）

だから（●ヒャクイチ、『ウ』ヒャクイチ、キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）、つかうエネルギーをへらせば、ウチュウはながもちするといえそうだが（ケツカ、ねつをタショウひくくする。）、そううまくいくであろうか。いずれにせよ（ネンリョウ）がダイジそうである。

ヒャクジュウ、『ウ』ヒャクジュウロク

ひかりには、ねつをつたえるサヨウがあるとおもわれる。ニッコウにあたれば、あったかいし、ジッサイにキオンもあがる。ということは、ひかりは、エル（ウンドウ）にエイキョウをおよぼす。さきの

エル イコール ダブリュエー（あたたかさ）

のはなしである（●ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクジュウゴ）。

つまり、あるウンドウエーは、ひかりをあてないと、ハチジュッキロメートルしかすすまないが、ひかりのねつがあると、ヒャッキロメートルすすむということが、カノウだろうとおもう。そういうわけで、ひかりはダイジなシゲンといえそうだ。

ヒャクジュウイチ、『ウ』ヒャクジュウハチ

エル（ウンドウ）はなにかにエイキョウをおよぼすことがある。チキュウジョウだって、くるまがとおれば、かぜのながれができるし、おとやシンドウもおこる。つまり、エルはまたベツのエルへとハセイするわけである。

エル イコール ティ（ジカン）

だから (●ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクジュウゴ、ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ、ヒャクサン、『ウ』ヒャクよん、ヒャクニ、『ウ』ヒャクニ、キュウジュウよん、『ウ』ロクジュウキュウ、キュウジュウサン、『ウ』ロクジュウハチ、ハチジュウサン、『ウ』よんジュウ、ななジュウロク、『ス』ヒャクよんジュウよん、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)、ジカンもやはりハセイする。

そういうわけだから、わるいおこないはバツするというようなシャカイのカンシウもできる。そのイチバンふるいエルは、ウチュウでのおおきなバクハツとかんがえるのが、よくあるであろう。それをならえば、バクダンができる。それだけではないはずだが。

ヒャクジュウニ、『ウ』ヒャクジュウキュウ

デッドロックのはなしをした (●キュウジュウよん、『ウ』ロクジュウキュウ、ロクジュウよん、『ス』ヒャクなな、ロクジュウサン、『ス』ヒャクよん、ゴジュウサン、『ス』よんジュウよん、『ス』ニジュウ)。デッドロックは、そのまわりのよんコのジュウリョクのチュウシンにイチするなにかについていったことばだ。

そのチュウシンにあるなにかはキホンテキにはうごかないであろう。しかし、チュウシンにあるなにかがかたくなければ、やがてボウチョウするだろう。かたくても、オンドがたかくなるだろう。ばあいによっては、バクハツするかもしれない。そのチュウシンにあるのが、ひょっとしたらウチュウかもしれない。そうかんがえると、おおきくいえば、「ウチュウ」とは、カゴウブツのイッコのゲンシみたいなものかもしれない。

ヒャクジュウサン、『ウ』ヒャクニジュウイチ

まえにココのイシキと、おおきなイシキのはなしをした (●ヒャクハチ、『ウ』ヒャクジュウよん)。チキュウやウチュウをおおうようなおおきいイシキがあるかもしれないし(ズサン)、

ジョウシキテキなココのイシキがある (ズ よん)。

またはそれがコンザイしているかもしれない (ズ ゴ) というはなしだ。

それは、ジカンについてもいえるかもしれない。

エル (ウンドウ) イコール ティ (ジカン)

で (●ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクジュウゴ、ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ、ヒャクサン、『ウ』ヒャクよん、ヒャクニ、『ウ』ヒャクニ、キュウジュウよん、『ウ』ロクジュウ

キュウ、キュウジュウサン、『ウ』ロクジュウハチ、ハチジュウサン、『ウ』よんジュウ、
ななジュウロク、『ス』ヒャクよんジュウよん、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)、イシキ
もエルのイッシュだからだ。

つまり、おおきなジカンはあるかもしれないが、ココのジカンはある（ジブンでカンサ
ツなりうごけばよい。）。そして、コンザイもあるかもしれない。

このおおきなジカンは、はかるシャクドがきまれば、すぐにでもカノウといえカノウ
だろう。たとえば、まえにものべたが、ひかりなどをほかのブッシツのウンドウのエイ
キョウをのぞいてタンイとすれば、ゼツタイジカンができる（●よんジュウよん、『ス』
ニジュウ、ニジュウサン、『オ』ハチ）。

ジカン イコール ゼツタイジカン かける ジカンケイスウ

をケイサンすればよい。それではかれれば、チキュウにすもうが、カセイにすもうが、フ
ベンはないだろう。ちいさくみれば、それぞれのリズムということである。

このセツはカイテイされました。イカ、ゲンブン。

ヒャクジュウサン、『ウ』ヒャクニジュウイチ

まえにココのイシキと、おおきなイシキのはなしをした（●ヒャクハチ、『ウ』ヒャク
ジュウよん）。チキュウやウチュウをおおうようなおおきいイシキがあるかもしれないし
（ズサン）、ジョウシキテキなココのイシキがある（ズよん）。またはそれがコンザイして
いるかもしれない（ズゴ）というはなしだ。

それは、ジカンについてもいえるかもしれない。

エル（ウンドウ）イコール ティ（ジカン）

で（●ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクジュウゴ、ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ、ヒャクサ
ン、『ウ』ヒャクよん、ヒャクニ、『ウ』ヒャクニ、キュウジュウよん、『ウ』ロクジュウ
キュウ、キュウジュウサン、『ウ』ロクジュウハチ、ハチジュウサン、『ウ』よんジュウ、
ななジュウロク、『ス』ヒャクよんジュウよん、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)、イシキ
もエルのイッシュだからだ。

つまり、おおきなジカンはあるかもしれないが、ココのジカンはある（ジブンでカンサ
ツなりうごけばよい。）。そして、コンザイもあるかもしれない。

このおおきなジカンは、はかるシャクトがきまれば、すぐにでもカノウといえカノウだろう。たとえば、まえにものべたが、ひかりなどをほかのブッシツのウンドウのエイキョウをのぞいてタンイとすれば、ゼツタイジカンができる（●よんジュウよん、『ス』ニジュウ、ニジュウサン、『オ』ハチ）。

ジカン イコール ゼツタイジカン わる インリョク

をケイサンすればよい。それではかれれば、チキユウにすもうが、カセイにすもうが、フベンはないだろう。ちいさくみれば、それぞれのリズムということである。

ヒャクジュウよん、『ウ』ヒャクニジュウニ

ウンドウにはエネルギーがヒツヨウだ。シキでいうと、

エル（ウンドウ）イコール イー（エネルギー）わる ダブリュ（シツリョウ）

だ（●ヒャクキユウ、『ウ』ヒャクジュウゴ、ヒャクイチ、『ウ』ヒャクイチ、キユウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キユウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ）。

コウセイがもえるにもネンリョウがヒツヨウだ。それらが、なるべくつづいたホウが、チキユウジンは、セイカツしやすい。だから、リサイクルをかんがえる。

しかし、チキユウジョウをみると、はでにエネルギーをつかっている（わたしもそうだ。パソコンをつかうのをやめられなかったりする。）。あまり、チキユウジョウのエネルギーがなくなっていくことをシンプイしていないかのようだ。むかしだったら、たまったきのブンくらいしかネンリョウにしなかった。それでも、もりをゼンメツさせたブンメイもある。そういうところはサバクになっている。

それなら、エネルギーがあるうちに、もりをシュウフクさせたホウがいいだろうに、あまりそういうはなしはきかない。なにがいいかという、コンピューターはショセンエネルギーのみである。エネルギーがなかったらうごかない。そんなセイヒンばかりをいまつかっている。むかしのひとにいわせれば、それはデカダン（タイハイ）だろう。だから、すこしでもひかえて、リサイクルできるエネルギーでまかなうようにしたホウがいいだろう。

ヒャクジュウゴ、『ウ』ヒャクニジュウゴ

エル（ウンドウ）は、ねつがたかとおおきくなくなるとかいた（●ヒャクキユウ、『ウ』ヒャクジュウゴ）。エルイコールティ（ジカン）だから（●ヒャクジュウイチ、『ウ』ヒャ

クジュウハチ、ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクジュウゴ、ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ、ヒャクサン、『ウ』ヒャクよん、ヒャクニ、『ウ』ヒャクニ、キュウジュウよん、『ウ』ロクジュウキュウ、キュウジュウサン、『ウ』ロクジュウハチ、ハチジュウサン、『ウ』よんジュウ、ななジュウロク、『ス』ヒャクよんジュウよん、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)、ティもねつがたかいホウがおおきいとなる。

それなら、あったかいホウが、ひとはながいきできるのかとななる。しかし、いまのチキュウジョウでは、ケイザイテキなモンダイがあつてか、さむいくにのホウがひとは、ながいきするようだ(●ハチ、『む』サンジュウよん)。ひとのジュミヨウをはかるのは、むずかしいようだ。

ヒャクジュウロク、『ウ』ヒャクニジュウロク

これまで、いくつかホウテイシキをかいた。それをセイリすると、ウチュウのエネルギーのおおきさがケイサンできそうだ。

エル(ウンドウ)イコールイー(エネルギー)わる ダブリュ(シツリョウ)

だから(●ヒャクジュウよん、『ウ』ヒャクニジュウニ、ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクジュウゴ、ヒャクイチ、『ウ』ヒャクイチ、キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)、エネルギーは、エルかける ダブリュとなる。

つまり、ウチュウナイのウンドウのソウワと、ウチュウナイのシツリョウのソウワがわかれば、ウチュウないのエネルギーのソウワがだせる。それで、コンゴのモヨウがあるテイドヨソクできるだろう。

ヒャクジュウなな、『ウ』ヒャクニジュウなな

まえにジカンリョコウのはなしをした(●ヒャクサン、『ウ』ヒャクよん、キュウジュウサン、『ウ』ロクジュウハチ)。おおザッパにいえば、それはむずかしい。だが、これまでのホウテイシキをセイリすると、カノウセイがある。

エル(ウンドウ)イコールイーエル(デンキ)(●ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウヒャクキュウ、ヒャク、『ウ』ヒャク、ななジュウニ、キュウジュウロク、『ウ』ななジュウイ

チ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、キュウジュウイチ、『ウ』ロクジュウゴ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ)、

エル イコールティ (ジカン) (●ヒャクジュウゴ、『ウ』ヒャクニジュウゴ、ヒャクジュウイチ、『ウ』ヒャクジュウハチ、ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクジュウゴ、ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ、ヒャクサン、『ウ』ヒャクよん、ヒャクニ、『ウ』ヒャクニ、キュウジュウよん、『ウ』ロクジュウキュウ、キュウジュウサン、『ウ』ロクジュウハチ、ハチジュウサン、『ウ』よんジュウ、ななジュウロク、『ス』ヒャクよんジュウよん、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)

につき、

ティ イコール イーエル

である。

イーエル イコール エル

である (●ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ、ヒャク、『ウ』ヒャク、キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キュウジュウロク、『ウ』ななジュウイチ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、キュウジュウイチ、『ウ』ロクジュウゴ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ)。

エル イコール イー (エネルギー) わる ダブリュ (シツリョウ)

であるから (●ヒャクジュウロク、『ウ』ヒャクニジュウロク、ヒャクジュウよん、『ウ』ヒャクニジュウニ、ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクジュウゴ、ヒャクイチ、『ウ』ヒャクイチ、キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)、

ティ イコール イー わる ダブリュ

だ。

そのティがマイナスのアタイをとれば、ジカンをギャッコウできるといえそうだ。エルのばあい、マイナスのエネルギーというのはむずかしいだろう（ギャッコウでも、コウホウにシンコウともかんがえられるからだ。シツリョウは、ここでは、マイナスをかんがえないことにする。）。イーエルのばあい、マイナスにできないか。ようするに、デンキをギャッコウさせるといふわけである。つまり、

マイナスイーエル イコール マイナスエネルギー わる ダブリュ

がなりたてば、

ティ イコール イーエル

により、マイナスティがタッセイできるというわけである。

だから、デンキをギャッコウさせることがカノウなら、ジカンリョコウはカノウということになる。しかし、それは、カコホウコウにだ。ミライにとどかせるのは、むずかしい（そのときをこえられない。）。だから、やりなおしたいばあいということになろう。また、ニンゲンもドウジにおくるのはむずかしいだろう。また、イチのモンダイもある（なにもないところに、おくってもしかたがない。）。ケイサンではそうなるが、

マイナスティ イコール マイナスエル

であるので、わかがりのようなコウカ、もしくはなにかをわすれるというコウカしかえられないとおもう。シュウダンテキにやれば、それなりのコウカはあろう。

ヒャクジュウハチ、『ウ』ヒャクニジュウハチ

エル（ウンドウ）は、ダブリュエー（ねつ）の Kansuウかもしれないといった（●ヒャクジュウ、『ウ』ヒャクジュウロク、ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクジュウゴ）。つまり、ねつがなければ、ウンドウはおこらないということだ。ドウブツもしぬとつめたくなるから、わかりやすいはなしだとおもう。ものも、こおらせてしまえば、ほとんどヘンカしない。ギャクにオンドをたかめれば、ウンドウがカッパツになるといえるのではないか。われわれは、そのねつにイゾンしているブブンがある。それがなければ、いきながらえない。ウチュウがもしおわるとすると、そのウンドウがテイシするということであろう。つまり、

エル イコール レイ

だ。

エルイコール イー (エネルギー) わる ダブリュ (シツリョウ)

だから (●ヒャクジュウなな、『ウ』ヒャクニジュウなな、ヒャクジュウロク、『ウ』ヒャクニジュウロク、ヒャクジュウよん、『ウ』ヒャクニジュウニ、ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクニジュウゴ、ヒャクイチ、『ウ』ヒャクイチ、キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)、エネルギーがレイになるばあいと、シツリョウがレイになるばあいがあるだろう。

エネルギー、そう、それが、ねつであるかもしれない。だから、たとえば、

エルイコール ダブリュエー (ねつ) わる ダブリュ (シツリョウ)

のような。

ウチュウのエネルギーがレイとは、すべてのものが、コタイになるというのにちかいだろう。また、エネルギーが、ウチュウのそとに、すべてでていったジョウタイだろう。イッポウ、シツリョウがレイとは、ものがすべてウチュウのそとにでていたということだろう。そうならなければ、ウチュウはつづく。ねつやシツリョウはそとがわにいくかもしれないが、またひきもどせばいいということだ。

ヒャクジュウキュウ、『ウ』ヒャクニジュウキュウ

エネルギーとは、ねつだけかということ、なんともいえないが、とりあえず、

エルイコール ダブリュエー (ねつ) わる ダブリュ

といえるだろう (●ヒャクジュウハチ、『ウ』ヒャクニジュウハチ、ヒャクジュウ、『ウ』ヒャクニジュウロク、ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクニジュウゴ)。

ということは、

ティ (ジカン) イコール ダブリュエー わる ダブリュ

でもあるし (

エルイコールティ [●ヒャクジュウなな、『ウ』ヒャクニジュウなな、ヒャクジュウゴ、『ウ』ヒャクニジュウゴ、ヒャクジュウイチ、『ウ』ヒャクニジュウハチ、ヒャクキュウ、

『ウ』ヒャクジュウゴ、ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ、ヒャクサン、『ウ』ヒャクよん、ヒャクニ、ヒャクニ、キュウジュウよん、『ウ』ロクジュウキュウ、キュウジュウサン、『ウ』ロクジュウハチ、ハチジュウサン、『ウ』よんジュウ、ななジュウロク、『ス』ヒャクよんジュウよん、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ]

につき。)、

ジー (ジュウリョク) イコールダブリュエー わる ダブリュ

でもあるし (

エル イコールジー [●ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ、キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ]

)、

イーエル (デンキ) イコール ダブリュエー わるダブリュ

でもある (

エル イコールイーエル [●ヒャクジュウなな、『ウ』ヒャクニジュウなな、ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ、ヒャク、『ウ』ヒャク、キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キュウジュウロク、『ウ』ななジュウイチ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、キュウジュウイチ、『ウ』ロクジュウゴ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ]

)。ねつがおおきいホウがジュウリョクはつよいとなる。

だが、「ブラックホール」は、はげしくもえていないにもかかわらず、ひきこむちからがおおきいとされる。それをどうセツメイするか。それは、フツウのコウセイにくらべて、ジュウリョクとハンタイホウコウにはたらく、ハンシンリョクがすくないからといえるのではないか。つまり、フツウのコウセイは、ジカイ (ジリョク) のように、ほかのワクセイをイッテイのキョリにおくが、ブラックホールは、そのジカイがよわまってしまっているということだ。だから、なにかものをひきつけてしまう。だから、エネルギーが つよいほど、インリョクが つよいと、タンジュンにはいえなかつたりする。

フツウのコウセイは、インリョクとハンシンリョク (●ハチジュウニ、『ウ』サンジュウキュウ、ハチジュウイチ、『ウ』サンジュウハチ、ロクジュウキュウ、『ス』ヒャクジュウゴ、ロクジュウロク、『ス』ヒャクキュウ、ロクジュウゴ、『ス』ヒャクハチ) がセットになっているのだろう。ひかりというのが、ハンシンリョクのショウタイかもしれない。

だから、コウセイをはかるには、ジーたすアール（ハンシンリョク）というようなシキになるかもしれない。ウチュウのチュウシンがもえているとすれば、かりに、もえつきたばあいに、ハンシンリョクのない「ブラックホール」になるであろうから、またものが、ウチュウのチュウシンにあつまるかもしれない。

ヒャクニジュウ、『ウ』ヒャクサンジュウ

ハンシンリョク（●ヒャクジュウキュウ、『ウ』ヒャクニジュウキュウ、ハチジュウニ、『ウ』サンジュウキュウ、ハチジュウイチ、『ウ』サンジュウハチ、ロクジュウキュウ、『ス』ヒャクジュウゴ、ロクジュウロク、『ス』ヒャクキュウ、ロクジュウゴ、『ス』ヒャクハチ）がありそうだから（それはひかりだとおもっている。）、コウセイドウシは、あまりおたがいをひきあわないだろう。つまり、ひかっているコウセイは、ドクリツしたユニットということだ。それを「ケイ」とよぶのではないか。だからひかっているコウセイにはあまりひきつけられない。キョクロンすると、コウセイのばあい、ほかへのエイキョウは、

ジー（ジュウリョク）ひく アール（ハンシンリョク）イコール レイ

なのかもしれない。

もえることイコール ダブリュエー（ねつ）たす アール（エルアイ [ひかり]）たすはい

ということだ。ジュウリョクのシキにいれて、ねつをエネルギーとすると、

ジー イコール（もえること たす ひかり たす はい）わる ダブリュ（シツリョウ）

となる。シツリョウのおおきなコウセイのホウが、ジーはすくないとケイサンできる。だから、もえつきてできた「ブラックホール」が、ジーがおおきいといえるだろう。よくもえているコウセイは、ジーがすくなくともいえる。タイヨウケイは、

ジー イコール アール たす エンシンリョク

でうまくつりあっているのだろう。

ヒャクニジュウイチ、『ウ』ヒャクサンジュウイチ

おもさには、プラスのあたいと、マイナスのあたいがありそうである（それをいまのところはシツリョウとイッショにしない。）。あるワクセイのうえでたまをもっていて、それをはなすとすると、ジュウリョクのあるワクセイでは、たまは、ワクセイのヒョウメンにおちる。このばあいは、プラスのあたいであろう。

さて、マイナスのあたいがでるところはあるか。これはありそうである。もし、「ない」とすれば、「ビッグバン」セツは、まちがいということになる。「ビッグバン」は、そのケイソクがマイナスのあたいをとるハウコウにちからがかかっている。つまり、たまはとばされるわけだ。そういうジョウケンもある。かりに、「シツリョウ」とカンケイあるゼンテイではなしをすすめると、

ジー（ジュウリョク）イコール イー（エネルギー）わる ダブリュ（シツリョウ）

だから（

エル [ウンドウ] イコール イー わる ダブリュ [●ヒャクジュウハチ、『ウ』ヒャクニジュウハチ、ヒャクジュウなな、『ウ』ヒャクニジュウなな、ヒャクジュウロク、『ウ』ヒャクニジュウロク、ヒャクジュウよん、『ウ』ヒャクニジュウニ、ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクニジュウゴ、ヒャクイチ、『ウ』ヒャクイチ、キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ]、

エル イコール ジー [●ヒャクジュウキュウ、『ウ』ヒャクニジュウキュウ、ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ、キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ] より。

)、シツリョウがマイナスだと、マイナスジュウリョクになる。つまり、おしだすということだ。

マイナスのエネルギーというのは、どうかとおもうが、「はい」などを、それにみたててケイサンしてみる。マイナスのエネルギーと、マイナスのシツリョウを、さきのシキでケイサンすると、

ジー イコール マイナス イー わる マイナス ダブリュ

で、プラスのあたいになる。ということは、

ジー イコールイーエル (デンキ)

であるから (●ヒャク、『ウ』ヒャク、ハチジュウキュウ、『ウ』ゴジュウサン、ハチジュウハチ、『ウ』ゴジュウニ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ)、マイナスのエネルギーでも、マイナスのシツリョウがあれば、プラスのデンキがえられるということになる。どうやって、マイナスのシツリョウをヨウイするかだが、またかんがえてみたい。

ヒャクニジュウニ、『ウ』ヒャクサンジュウサン

イシキはサイボウにあるのではとかいた (●ヒャクハチ、『ウ』ヒャクジュウよん、ロクジュウハチ、『ス』ヒャクジュウよん、ロクジュウニ、『ス』キュウジュウよん、ロクジュウイチ、『ス』キュウジュウサン、ロクジュウ、『ス』キュウジュウイチ、ゴジュウキュウ、『ス』ハチジュウロク、ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン)。それだと、ノウはウンドウをするためのキカンとなる。しかし、ダイタイのニンゲンのイシキは、ことばをつかうであろう。だから、そのメンでは、ノウのハンチュウといえそうだ。

ことばをシュウトクするには、ウンドウがヒッスである。「あ」ということばをおぼえるにも、そのハツオンをきいて、ジブンでいってみて、おぼえるようだ。だから、ナラティブ (オンセイ) のばあいは、ノウがはたらいているとってよいだろう。つまりウンドウだ。モジのばあいは、いきなりよめるようにならないし、ほとんどのばあいが、オンセイをきいておぼえるようではないか。だとしたら、ウンドウというわけだ。ただ、ことばにならないおもいなど、サイボウがもっていることはあるとおもう。

ヒャクニジュウサン、『ウ』ヒャクサンジュウキュウ

デンキをながすと、ねつをだすブッシツがある。それがどのブッシツにも、おおかれ、すくなかれ、あてはまるとすれば、ねつはデンキのカンスウということになる。つまり、

ダブリュエー (ねつ) イコール エックス かける イーエル (デンキ)

である。

デンキからねつをだすソウチは、ジッサイにうられているし、わたしもつかっている (もし、そのギャクのテンカイがカノウとすると (スウシキジョウはカノウだ。)、ねつからデンキをつくれることになる。チネツハツデンもあるし、カリョクハツデンもそれにちかい。また、おおきなイミではフウリョクハツデンもそうだろう。カイスイのオンドのばらつきによるクウキのながれからハツデンしている。

そのギジュツがカクリツされれば、チキュウオندانカというから、デンキにこまらないのだろう。また、

イーエル イコール エル (ウンドウ)

だから (●ヒャクジュウなな、『ウ』ヒャクニジュウなな、ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ、ヒャク、『ウ』ヒャク、キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キュウジュウロク、『ウ』ななジュウイチ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、キュウジュウイチ、『ウ』ロクジュウゴ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ)、

ダブリュエー イコール エックス かける エル

となる。

ねつは、ウンドウの Kansuウともいえよう。また、

エルイコール イー (エネルギー) わる ダブリュ (シツリョウ)

だから (

ダブリュエー わる エックス イコールエル

とテンカイさせて、●ヒャクサンジュウイチ、ヒャクニジュウハチ、ヒャクニジュウなな、ヒャクニジュウロク、ヒャクニジュウニ、ヒャクジュウゴ、ヒャクイチ、ななジュウニ、ロクジュウロク、『ス』よんジュウサン、『よ』サンジュウニ)、

ダブリュエー わる エックス イコール イー わる ダブリュ

で、シツリョウがレイのばあい、ねつはショウじないとなる。

つまり、ねつはものがないとしようじないとなる。だから、ひかりもものであろう。もののばあいは、

エルイコール イー わる ダブリュ

で、

エル イコール イーエル

だから、ひかりもデンキのひとつといえる。つまり、ひかりには、ハッするテンとトウチャクテンがあるということだ。

ヒャクニジュウよん、『ウ』ヒャクよんジュウ

まえに、ウチュウのそとがわにひかりのコタイがたまっているかもしれないかいた(●ハチジュウイチ、『ウ』サンジュウハチ、ゴジュウロク、『ス』ゴジュウキュウ、ゴジュウよん、『ス』ヨンジュウハチ)。また、それはチキュウのなかからみたそとがわについても、おなじことがいえる(●ななジュウキュウ、『ウ』ニジュウイチ、ななジュウイチ、『ス』ヒャクニジュウロク)。いま、セキユをリヨウしているが、そのことかもしれない。もし、もっとはやくそれをシテキできていれば、かなりかせげたかもしれないが、オウベイのひとにさきをこされてしまった。

もし、もえることもデンキのイッシュとかがえれば、ネンリヨウをハンノウさせてデンキをつくっているわけだから、そのギャクもカノウではないかということになる。つまり、デンキからネンリヨウがつくれるということだ。それができれば、セキユのコカツ(タブン、しないとおもうが。)もモンダイではないだろう。

ヒャクニジュウゴ、『ウ』ヒャクよんジュウイチ

ねつはデンキのカンスウだから、デンキをつかうほど、ねつがおおきくなるといえる(●ヒャクニジュウサン、『ウ』ヒャクサンジュウキュウ)。「チキュウオンダンカ」は、シーオーターがゲンインとされることがあるが、ジツは、デンキのリヨウリヨウがゾウダイしたためといえないか。スウシキからいうとそうなる(

イーエル [デンキ] イコール ダブリュエー [ねつ] わるダブリュ [シツリヨウ]、

●ヒャクジュウキュウ、『ウ』ヒャクニジュウキュウ、ヒャクジュウハチ、『ウ』ヒャクニジュウハチ)。

だから、デンキのリョウリョウをへらせば、「チキウオンダンカ」はとまるだろうが、ジッサイテキには、むずかしいとおもわれる。ダンボウやパソコンをつかわないというのは、きびしいだろうからだ。だから、トウキョウがしむセンもかんがえないといけないかもしれない。

ヒャクニジュウロク、『ウ』ヒャクよんジュウニ

どうすれば、「チキウオンダンカ」をとめるようにできるだろう。ひとついえなそうなのは、ものをかうばあい、ちかくでつくられたものをかうことだろう。とおくからはこぶのなら、

エル (ウンドウ) イコール イー (エネルギー) わる ダブリュ (シツリョウ)

だから (●ヒャクニジュウサン、『ウ』ヒャクサンジュウキウ、ヒャクニジュウイチ、『ウ』ヒャクサンジュウイチ、ヒャクジュウハチ、『ウ』ヒャクニジュウハチ、ヒャクジュウなな、『ウ』ヒャクニジュウなな、ヒャクジュウロク、『ウ』ヒャクニジュウロク、ヒャクジュウよん、『ウ』ヒャクニジュウニ、ヒャクキウ、『ウ』ヒャクジュウゴ、ヒャクイチ、『ウ』ヒャクイチ、キウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)、おもいものほど、エネルギーがかかる。

エルをデンキとみれば (

エル イコール イーエル [デンキ]

より。●ヒャクニジュウサン、『ウ』ヒャクサンジュウキウ、ヒャクジュウなな、『ウ』ヒャクニジュウなな、ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキウ、ヒャク、『ウ』ヒャク、キウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キウジュウロク、『ウ』ななジュウイチ、キウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、キウジュウイチ、『ウ』ロクジュウゴ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ)、とおくのおもいものほど、ショウヒデンリョクがおおきい。

つまり、もののイドウについては、ワットなりイーアイ (わたしがかんがえたタンイ、●ヒャクキウ、『ウ』ヒャクジュウゴ) であらわせるわけだ。そのスウチのひくいものをかえば、デンキのリョウリョウがちいさいから、チキウオンダンカをとめるのに、コウカがあろう。ショウヒンにねだんとイッショに、つかったエネルギーのヒョウジをするといいかもしれない。

ハクニジュウなな、『ウ』ハクよんジュウよん

エル (ウンドウ) イコール イーエル (デンキ)

とかいた (●ハクニジュウロク、『ウ』ハクよんジュウニ、ハクニジュウサン、『ウ』ハクサンジュウキュウ、ハクジュウなな、『ウ』ハクニジュウなな、ハクゴ、『ウ』ハクキュウ、ハク、『ウ』ハク、キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キュウジュウロク、『ウ』ななジュウイチ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、キュウジュウイチ、『ウ』ロクジュウゴ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ)。

くわしくセツメイしなかったかもしれないが、セツメイすると、あるものとベツのなにかをこすりあわせていると、セイデンキがおこる。それは、マサツというかもしれないが、そのうごきはウンドウであろう。そういうわけで、

エル イコール イーエル

なのである。

ハクニジュウハチ、『ウ』ハクよんジュウなな

ショクブツはコウゴウセイするという。グタイテキには、ニサンカタンソとスイソから、みずとサンソをつくるということである。まえに、ひかりはデンキだとかいた (●キュウジュウキュウ、『ウ』キュウジュウ)。だから、デンキをあびせれば、ショクブツは、コウゴウセイするかもしれない。しかし、ケイコウトウのひかりではだめらしい (わたしのケイケン、●ハクなな、『ウ』ハクジュウイチ) イッポウ、ハクnetzデンキウでは、そだっているようだ。

しかし、ひかりやデンキというよりも、タンジュンにいえば、スイソであろう。スイソがなければ、みずはできない。ニッコウのセイブンのひとつは、スイソといっているのではないか。そうでなければ、みずはできない。

ところで、ニサンカタンソにひかりをあてつづけたら、どうなるであろう。チキュウはもえているので、ニサンカタンソは、むかしからあるとおもわれる。そこに、ニッコウがあたっていたのかわらないであろう。あまり、ニサンカタンソがブンカイされれば、みずとタンソができるか、タンスイカブツと、サンソができるであろう。このふたつのうち、どちらがさきだったのであろうか。

なにか、クフウしてやれば、これらができるわけである。このふたつは、ショクブツケイにヒツヨウなブッシツと、ドウブツケイにヒツヨウなブッシツである。そのショクブツとドウブツがどうやってできたか。または、どこからかはこばれてきたかというのはわからない。ためにそのブッシツをどこかのワクセイにおいておいたら、どうなるの

かをみてもいいかもしれない。

ヒャクニジュウキュウ、『ウ』ヒャクゴジュウゴ

イシキとはなにか。このといにこたえないひともいるらしい。ブンケイテキにいえば、かんがえたりするなにかというのにちかいだろう。わたしは、これは、サイボウがカガクハンノウをしたり、ねつをもったケツカシヨウずるものとかんがえる。ヨウするに、エル（ウンドウ）というわけである。だから、ウンドウしていないものは、イシキをもたないであろう。

そこらにあるいしは、キホンテキにはイシキをもたないであろう。しかし、チキュウのジュウリョクにひかれているブンウンドウがある。だから、イシキをもつかもしいない。ひよっとしたら、もっとおおきなレベルでイシキがあるかもしれない。

ヒャクサンジュウ、『ウ』ヒャクゴジュウキュウ

イシキというのは、ダンペンでもある。しかし、それをならべれば、レキシになる。ということは、イシキは、ジカンといってもさしつかえないのではないか。つまり、

シーオー（イシキ）イコール ティ（ジカン）

である。

ジカンでなかったら、エル（ウンドウ）といえよ。デンキシングウなり、カガクブツツツがうごくわけだから、そういうわけだ。

カガクブツツツやデンキシングウというわけだから、それをよみとれるキノウがあれば、イシキをあつかうイシキというわくぐみはあるだろうということになる。だから、ニンゲンイガイのどうぶつだけでなく、シヨクブツにも、イシキがあるだろうとなる。そのイシキをあつかうイシキのわくぐみとはなんだろう。わたしは、それは、タンパクツツではないかとおもっている。よくたべたホウがイシキカツドウがカツパツになるからである。

ヒャクサンジュウイチ、『ウ』ヒャクロクジュウ

コンピューターのジョウホウシヨリは、エル（ウンドウ）である。デンキシングウをシヨリしている。ということは、ティ（ジカン）でもある。カンジョウをもつものもあるというから、イシキもあるかもしれない。これで、セイブツのように、フクセイできるよ

うになったら、もはやギジセイブツである。

ただ、ボディのフクセイはむずしいだろう。だから、なんかのボディにキセイするセンがかんがえられる。すると、あたらしいセイブツシュかもしれない。しかし、カガクブツシツのショリができないかから、セイブツとはいえないかもしれない。もはや、そんなときかもしれない。コンピューターは、コンピューターのツゴウでうごく。

ヒャクサンジュウニ、『ウ』ヒャクロクジュウイチ

コウセイには、ジュウリョクがあるにもかかわらず、なぜ、ワクセイは、ひきよせられないか。それは、コウセイのジュウリョクが、デンキやジリョクによるものだからでないか（

ジー [ジュウリョク] イコールイーエル [デンキ] [●ヒャクニジュウイチ、『ウ』ヒャクサンジュウイチ、ヒャク、『ウ』ヒャク、ハチジュウキュウ、『ウ』ゴジュウサン、ハチジュウハチ、『ウ』ゴジュウニ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ]、

イーエル イコール エム [ジリョク]

)。

つまり、ちからがつりあって、エンキドウをえがくということである。

しかし、コウセイがもえつきてしまうと、デンキやジリョクは、まわりをひきつけるホウにかわり、ブラックホールのようにになるとかんがえられる。なぜ、デンキやジリョクのちからがかわるか。もえるというカツドウともえきったというカツドウのちがいはないかとおもう。

ヒャクサンジュウサン、『ウ』ヒャクななジュウニ

よく、ウチュウのはじまりは、「ビッグバン」でセツメイされるが、そのまえになにもなかったんだらうか。わたしは、ウチュウのそとには、ウチュウみたいなものがあるとおもっているし、チキュウのなかにも、チキュウのようなものがあるとおもっている（●ななジュウイチ、『ス』ヒャクニジュウロク）。

ようするに、ウチュウだけのモンダイではないだろうということだ。リョウシャから、アツリョクをうけるといってもいいだろう。そのアツリョクがよわければ、ウチュウはひろがるし、アツリョクがよわまれば、ウチュウはちぢまるだろう。ものがすでにあった

とすれば、「ビッグバン」がはじまるまえに、ウチュウにちからがくわったんだろう。それはどういうことかということ、チュウシンがコウオンになるということだ。そうすると、ハッカもするだろう。また、ひがつくということは、カガクハンノウのようなものだから、そのまえにそういうブッシツ、デンキがあったということになるろう。

わたしは、すべてのウンドウは、デンキでもあるとかがえるから（

エル [ウンドウ] イコールイーエル [デンキ]、●ヒャクニジュウハチ、『ウ』ヒャクよんジュウよん、ヒャクニジュウロク、『ウ』ヒャクよんジュウニ、ヒャクニジュウサン、『ウ』ヒャクサンジュウキュウ、ヒャクジュウなな、『ウ』ヒャクニジュウなな、ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ、ヒャク、『ウ』ヒャク、キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キュウジュウロク、『ウ』ななジュウイチ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、キュウジュウイチ、『ウ』ロクジュウゴ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ

)、どこかからデンキがとどいた（もえるテンに）ということだろうとおもう。

ヒャサンジュウよん、『ウ』ヒャクななジュウサン

チキュウがもえているということは、チキュウにあるゲンシがもえてもおかしくない。しかし、チキュウのように、ヒョウメンには、ひはつかないであろう。コウセイぐらいのもえかただと、やはり、ゲンシももえるのだろう。ニンゲンもひをつかうことをおぼえている。だが、チキュウヒョウメンのカンキョウでは、ネンリョウをつかうヒツヨウがあるのかもしれない。

ヒャクサンジュウゴ、『ウ』ヒャクななジュウよん

クーラーをつけているにもかかわらず、まどをしめなかったらどうなるか。すずしいクウキがでていくか、あたたかいクウキがはいってきてしまう。これはなんだろう。「ねつのコウカン」といえば、とおるだろうが、これは、「ウンドウ」ではないのか。これも、おおきなイミでは、ウンドウだろう。

コウセイからひかりが、ウチュウのそとがわにむかっていく。これは、ひかり（エルアイやイーエル [デンキ]）のイッシュがウチュウのそとがわにむかっているかもしれないが、あたたかいブッシツが、つめたいウチュウのそとがわにむかっているのかもしれない。つまり、ナンゼンドというコウセイのチュウオウからみれば、ナンビャクドにもえたベツのコウセイのひかりはみえない（とどかない）となる。チキュウのヒョウメンからほしがみえるのは、チキュウのヒョウメンがヒカクテキつめたいからだろう。このネツコウカンをジュンウンドウということにする。

ヒャクサンジュウロク、『ウ』ヒャクななジュウロク

あるものエーがあったとする。これにアツリヨクをかけると、エーのオンドさがる。トクに、エキタイからコタイになるというヘンカはわかりやすいだろう。ギャクのアツリヨクをかけたら、タホウコウからひっぱったら、どうなるか。ギャクにオンドがあがるだろう。やがてひがつく。ウチュウのはじまりが「ビッグバン」だとしたら、タホウコウからひっぱるちからがあったともいえるだろう。

つまり、オンドによって、もののキョウカイがダイショウするということだ。

ティエイチ (もの) エルエー (おおきさ) イコールティエイチダブリュエー (あたたかさ)

と。ティエイチピーディ (アツパクされる) イコール マイナスティエイチダブリュエー、

ティエイチエスディ (ひっぱられる) イコール ティエイチダブリュエー

といえそうだ。

ヒャクサンジュウなな、『ウ』ヒャクななジュウなな

ものがもえるとひかりがでる。これはケツカで、もののオンドがたかくなると、ひかりがでるということだろう。また、ものがボウチョウしてもでるかとおもう。つまり、

ダブリュエー (あたたかさ) イコール エルアイ (ひかり)、

エルエー (おおきさ) イコール エルアイ

というわけである。しかし、あるイッテイのオンドやおおきさをこえたらといえるかもしれない。

ヒャクサンジュウハチ、『ウ』ヒャクななジュウハチ

ニュートンは、リンゴがきからおちるさまをみて、「ジュウリヨク」があるとハッケンしたという。そのジュウリヨク (ジー) は、わたしにいわせれば、エル (ウンドウ) でもあるし、イーエル (デンキ) でもある。リンゴがウンドウとして、ジメンのホウにいく。ということは、デンキもジメンのホウにいくとかんがえられる。デンキはほしのチュウシンのホウにいくのかもしれない。ただエイセイツイウシンもカノウというから、エイキョウはおおくないのかもしれない。

ヒャクサンジュウキュウ、『ウ』ヒャクハチジュウ

ウチュウにあるコウセイはなぜか、まわりをカイテンさせる。チキュウもそういうわけでコウテンしている。また、コウテンするからジテンもする。なぜ、コウセイがジュウリョクをもつとされるか。それは、もえるもののイドウによってだろう。つまり、もえるのをイジするには、なにかブッシツがヒツヨウだから、それをひきよせるし、そのながれができる。だから、コウセイそのものにジュウリョクがあるわけではないとおもわれる。

つまり、ゲンショウということだ。しかし、もえたあとにできるだろう「ブラックホール」は、なぜものをひきよせるといわれるのだろうか。それはまだもえつきていないからかもしれない。ゲンショウがつづくというわけである。しかし、もえているのなら、「ひかり」をはっするはずである。だしたひかりさえもひきつけてしまうのかもしれない。あまり、ひかりがまがるとはきかないから、ひかりをださないようにもえているのかもしれない。あまり、ねつをもたないひかりもあるというから、あまり、ひかりをもたないねつがあるのかもしれない。いずれにせよ、カンサツしても、ひかりがかえってこないのでは、カンサツしづらいであろう。

ヒャクよんジュウ、『ウ』ヒャクハチジュウイチ

「ひかり」というものはホントウにあるのだろうか。「ひかり」は「ひかり」でも、ものとしてはあるだろう。しかり、「ひかる」というゲンショウは、それがあたるタイショウがあつてのこのようにおもわれる。つまり、「ひかり」イガイになにかがなければ、ひからないというわけである。

コウセイのちかくから、ウチュウをみると、ほとんどなにもみえないのではないか。ひるまのほしぞらとおなじである。ひるまにかべがあると、そのかべがひかりにあたって、はいいろにみえる。よるだとあまりみえない。なぜ、そのかべは、はいいろなのか。それは「ひかり」にあたってであろう。つまり、かべはいいろに「ひかっている」わけだ。そこでダイジなのが、「かべ」がひかっているということである。つまり、「ひかり」が、かべを「ひからせた」のである。ひとことでいうと、「かべ」はひかるセイシツをもっている。ひかるセイシツのないほかのものは、ひとにいやがられるであろう。ニンゲンにはみえないからだ。これは、デンキなどをつかかってかべをひからせるというのにしている。いまのところ、「デンキ」としておくが、タブン、ひかりというブッシツのなにかがかべにあたって、かべがハツコウする。だから、エムイー（デンキをおびたもの）イコー

ルエルアイ（ひかり）なのだろうといえる。つまり、デンキをおびるものは、ひかるというわけである。そのキョウジャクはあるだろう。

ヒャクよんジュウイチ、『ウ』ヒャクハチジュウニ

デンアツをかけると、ひかるものがある。わかりやすいのが、デンキユウである。また、ねつをハツするものもある。わかりやすいのが、トースターであろう。このように、さきのシキにあてはめると（●ヒャクよんジュウ、『ウ』ヒャクハチジュウイチ）、おなじエムイー（デンキをおびたもの）だが、そして、タブンどちらとも、ひかりをだすが、コウリョウにかたよったものと、ねつにかたよったものにわかれる。ゼンシャをメイコウ、コウシャをネツコウということにする。

おなじデンキでも、このようなサがある。これは、ひかりジタイのセイシツなのだろうか。あたるもののセイシツともかんがえられる。ドウロはねつをハンシャしてというぐあいである。これも、デンキがあたって、ドウロがあつくなつたのかもしれない。つまり、ドウロジタイがあつくなつたということである。それなら、ものによってはあつくならないのであろう。

しかし、ネツコウには、ゲンドがありそうだ。タイヨウケイのそとがわのワクセイはずしそうだからだ。つまり、キョリによって、ねつのつたわるリョウがきまりそうだ。タンにタイヨウケイのそとがわのワクセイに、ねつをだしにくいものがあるわけでもないだろう。

エムイー イコール エルアイ（ひかり）

だが、

エムイー イコール エフエルアイ（あかるいひかり）

でも、

エムイー イコールダブリュエーエルアイ（あたたかいひかり）

にはなりづらいであろう。いや、ひよっとしたら、

エムイー イコール エフエルアイ

にもならないかもしれない。そんなとおくまでひかりをとばしたことがないからだ。

つまり、

ダブルユエーエルアイ イコールイー (エネルギー)、

もしくは、

イーエル (デンキ)、もしくは、エルアイ (ひかり) わる ディ (キヨリ)

か、

エフエルアイ イコール イー、

もしくは、

イーエル わる ディ

なのかもしれない。そんなとおくまで、すくなくともねつを、ひかりははこべない。ひかりそのものもねつをうばわれれば、コタイになるだろうから、うごきにくくなるとおもう。だから、コウシャのリカイでいいのかもしれない。ほしのひかりがチキュウまでとどくのは、それだけキョウレツにもえている、いたからであろう。しかし、ゲンショウとしての「ひかり」がコタイになるのかというモンダイはある。

ヒャクよんジュウニ、『ウ』ヒャクハチジュウよん

エル (ウンドウ) のイッシュとして、ダブルユエー (あたたかさ) があるのではと聞いたが (●ヒャクジュウキュウ、『ウ』ヒャクニジュウキュウ、ヒャクジュウハチ、『ウ』ヒャクニジュウハチ、ヒャクジュウ、『ウ』ヒャクジュウロク、ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクジュウゴ)、ジッサイのシキにしてみると、

エル イコール ダブルユエー わる ダブルユ (シツリョウ)

となる (●ヒャクジュウキュウ、『ウ』ヒャクニジュウキュウ、ヒャクジュウハチ、『ウ』ヒャクニジュウハチ)。

これは、ヒコーキなどをかんがえれば、わかるだろう。ネンリョウからかんがえてもいいが、そこでおこるゲンショウから、かんがえてもいい。

つまり、ねつをださなければ、ヒコーキはとべない (デンキシキもあるのだが)。まえは、

エル イコール イー (エネルギー) わる ダブリュ

といった (●ヒャクニジュウロク、『ウ』ヒャクよんジュウニ、ヒャクニジュウサン、『ウ』ヒャクサンジュウキュウ、ヒャクニジュウイチ、『ウ』ヒャクサンジュウイチ、ヒャクジュウハチ、『ウ』ヒャクニジュウハチ、ヒャクジュウなな、『ウ』ヒャクニジュウなな、ヒャクジュウロク、『ウ』ヒャクニジュウロク、ヒャクジュウよん、『ウ』ヒャクニジュウニ、ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクジュウゴ、ヒャクイチ、『ウ』ヒャクイチ、キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、ゴジュウニ、『ス』よんジュウサン、ジュウゴ、『よ』サンジュウニ)。

そのイーを、ダブリュエーにかえたわけだ。こういうわけだから、ウンドウは、あたたかさの Kansu といえる。

ヒャクよんジュウサン、『ウ』ヒャクハチジュウゴ

イッパンのセイカツで、ものをもやしたあとには、くろいすみがのこる。コウセイがもえたあとにも、これはできないであろうか。カーボンがふくまれていれば、それがのこるとおもわれる。くろは、ひかりをキュウシュウするというから、これゆえに、ブラックホールにひかりがすわれるのかもしれない。ひかりをキュウシュウすれば、あとでかくが、エルアイ (ひかり) の Kansu がウンドウなので、カツドウをはじめるとかかんがえられる。

ヒャクよんジュウよん、『ウ』ヒャクハチジュウロク

さきに、

エル (ウンドウ) イコールダブリュエー (あたたかさ) わる ダブリュ (シツリョウ)

のはなしをした (●ヒャクジュウキュウ、『ウ』ヒャクニジュウキュウ、ヒャクジュウハチ、『ウ』ヒャクニジュウハチ)。

そのダブリュエーは、ひかりの Kansu ということをかいた (●サンジュウよん、ニジュウイチ、ジュウニ)。つまり、

ダブリュエー イコール エルアイ (ひかり) わる ディ (キヨリ)

である。これがただしければ (ひかりのセイシツについてギロンしている [●ヒャクよんジュウイチ、『ウ』ヒャクハチジュウニ]。ここではねつのひかりである。)

エル イコール エルアイ わる ディ わる ダブリュ

となる。

つまり、ウンドウは、ひかりのカンスウということである。これは、ウンドウだけではなく、デンキについてもいえる。だから、デンキとひかりはヘンカンカノウなのだ (

イーエル イコール エルアイ わる ディ わる ダブリュ

である。デンキはゲンショウとしてなので、シキにシツリョウはふくまれていない。

)。もっともシツリョウがちいさいひかりをとばせば、もっともウンドウがたかまるであろうか。

ヒャクよんジュウゴ、『ウ』ヒャクハチジュウなな

エルアイ (ひかり) がおいほど、ウンドウがおおきくなる (●ヒャクよんジュウよん、『ウ』ヒャクハチジュウロク)。これは、シャカイゲンショウについてもいえるのではないだろうか。チキュウのそとから、チキュウのうらがわ (よる) をみると、ケッコウなあかるさだという。つまり、そのあかるさのブンだけ、だれかがうごいているということである。くらくして、ねてしまえばいいが、そうしないひともある (わたしもいま、デンキをつけている。)。そういうデンリョクがセツヤクされれば、チキュウもあつたまりにくいであろう (

ダブリュエー [あたたかさ] イコール エルアイ [ひかり] わる ディ [キヨリ]

より。●ヒャクよんジュウよん、『ウ』ヒャクハチジュウロク、ハチジュウ、『ウ』サンジュウよん、ななジュウキュウ、『ウ』ニジュウイチ、ななジュウハチ、『ウ』ジュウニ

)。

ただ、そうすると、どこかとのキョウソウにかてないとかいいはじめるかもしれない。そういうわけで、ロウドウセンソウは、おわらせづらいかもしれないが、イツセイにフェ

アワークをドウニュウすることもできるだろう。そうしないと、チキュウがあったまらばかりである。まずは、よるに、しごとをしないというところからかもしれない。

ヒャクよんジュウロク、『ウ』ヒャクハチジュウハチ

カセキネンリョウをつかって、ハツデンすれば、トウゼンねつがでる。そのねつをひやすためにつめたくしても、やはり、カセキネンリョウにたよるようだ。ゲンパツにしてもねつをだす。そうすると、やはりチキュウがあたたかくなる。それなら、ねつをださないようなハツデンホウホウとか（フウシャなど）、あるねつからハツデンする（チネツハツデンなど）のがいいかもしれない。

ニホンジンのいくらかは、またゲンパツをすすめたがっているが、やはり、ねつをだすことにはかわりがない。そういうおもわくがあるから、「ニサンカタンソがふえると、チキュウがあたたかくなる。」といったケントウちがいのセツになってしまうのかもしれない。

なにかをもやすから、ねつがでて、「ニサンカタンソもでて」、チキュウがあったかくなるであろう。そういうねつのメンからみれば、（ニサンカタンソはださないかもしれないが）、ゲンパツはねつをだす。だから、だめであろう。いまあるねつを、ユウコウにカツヨウできたらとおもう（

イーエル [デンキ] イコールダブリュエー [あたたかさ] わる ダブリュ [シツリョウ]

である。●ヒャクニジュウゴ、『ウ』ヒャクよんジュウイチ、ヒャクジュウキュウ、『ウ』ヒャクニジュウキュウ、ヒャクジュウハチ、『ウ』ヒャクニジュウハチ)。

ヒャクよんジュウなな、『ウ』ヒャクハチジュウキュウ

このまえ、

エル (ウンドウ) イコールダブリュエー (あたたかさ) わる ダブリュ (シツリョウ)

のはなしをした (●ヒャクよんジュウよん、『ウ』ヒャクハチジュウロク、ヒャクよんジュウニ、『ウ』ヒャクハチジュウよん、ヒャクジュウキュウ、『ウ』ヒャクニジュウキュウ、ヒャクジュウハチ、『ウ』ヒャクニジュウハチ)。

このシキをいじると、

エル かける ダブリュ イコールダブリュエー

となる。

つまり、イチ、ウンドウをしていて、ニ、シツリヨウのあるものは、すべてねつをハツするということである。シツリヨウがないなにかは、ほとんどないだろうから、ウンドウがあれば、だいたいねつをハツしているだろうということだ。

これをオウヨウすると、ねつやウンドウをソクテイして、もののおもさをスイソクすることができる。また、デンキについても、おなじことがいえる。

イーエル (デンキ) イコール エル

だから (●ヒャクニジュウハチ、『ウ』ヒャクよんジュウよん、ヒャクニジュウロク、『ウ』ヒャクよんジュウニ、ヒャクニジュウサン、『ウ』ヒャクサンジュウキュウ、ヒャクジュウなな、『ウ』ヒャクニジュウなな、ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキュウ、ヒャク、『ウ』ヒャク、キュウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、キュウジュウロク、『ウ』ななジュウイチ、キュウジュウニ、『ウ』ロクジュウロク、キュウジュウイチ、『ウ』ロクジュウゴ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ)、イーエルかける ダブリュ イコール ダブリュエー というわけだ。

これも、デンキとねつがわかれば、シツリヨウがでる。なるべくシツリヨウのちいさいものをねっすると、ハツデンコウカがおおきいということである。

ヒャクよんジュウハチ、『ウ』ヒャクキュウジュウゴ

エル (ウンドウ) イコール ダブリュエー (あたたかさ) わるダブリュ (シツリヨウ)

のはなしをした (●ヒャクよんジュウなな、『ウ』ヒャクハチジュウキュウ、ヒャクよんジュウよん、『ウ』ヒャクハチジュウロク、ヒャクよんジュウニ、『ウ』ヒャクハチジュウよん、ヒャクジュウキュウ、『ウ』ヒャクニジュウキュウ、ヒャクジュウハチ、『ウ』ヒャクニジュウハチ、ヒャクジュウ、『ウ』ヒャクジュウロク、ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクジュウゴ)。

わたしは、

エル イコール ジー (ジュウリョク)

とかんがえるので (●ヒャクニジュウイチ、『ウ』ヒャクサンジュウイチ、ヒャクジュウキユウ、『ウ』ヒャクニジュウキユウ、ヒャクゴ、『ウ』ヒャクキユウ、キユウジュウなな、『ウ』ななジュウニ、ハチジュウゴ、『ウ』よんジュウゴ)、

ジー イコール ダブリュエー わる ダブリュ

となる。

つまり、ジュウリョクとは、ねつとシツリョウでできているとなる。「ブラックホール」もそうだろう。わたしは、それを、コウセイがもえたあととかんがえている (●ヒャクサンジュウキユウ、『ウ』ヒャクハチジュウ)。ブラックホールはジュウリョクをもつという。うえのシキによれば、ねつがあるはずだから、あたたかいはずだ。ギャクにねつがひくければ、ジュウリョクはよわいわけだから、フツウにもえていたときよりもコウオンなのかもしれない。また、もえだすカノウセイがある。

ヒャクよんジュウキユウ、『ウ』ヒャクキユウジュウロク

さきのシキ (●ヒャクよんジュウハチ、『ウ』ヒャクキユウジュウゴ) をセイリすると、

ジー (ジュウリョク) かける ダブリュ (シツリョウ) イコールダブリュエー (ねつ)

となる。

ひっぱるちからと、シツリョウがあると、ねつがハッセイする。このゼンシャをマグテキナウンドウということにする (「マサツ」といったホウがわかりやすいだろうが。)

マグテキナウンドウをさければねつはあがらない。いろんなどころでもえていると、ジーがタクサンあるということである。

ヒャクゴジュウ、『ウ』ヒャクキユウジュウなな

チキュウオンダンカがモンダイとされる。ねつをデンキに（

イーエル [デンキ] イコール ダブリュエー [あたたかさ] わるダブリュ [シツリョウ]。

●ヒャクよんジュウロク、『ウ』ヒャクハチジュウハチ、ヒャクニジュウゴ、『ウ』ヒャクよんジュウイチ、ヒャクジュウキュウ、『ウ』ヒャクニジュウキュウ、ヒャクジュウハチ、『ウ』ヒャクニジュウハチ

)かえているのだから、あつくなるイッポウあろう。ハツデンしたり、ダンボウをつかったりというぐあいなのである。

それをとめるには、ねつやデンキのリョウをひかえなくてはならないだろう。チキュウにながくすみたかったら、そうするだろう。しかし、センジュツのロウドウセンソウ(●ヒャクよんジュウゴ、『ウ』ヒャクハチジュウなな)がそれをするをよしとしない。ようするに、チキュウジンのヘイワより、それをやっているくにのリエキがユウセンされるわけである。これをどうかんがえるか。

たしかに、ねつがあがれば、ケイザイカツドウもおおきくなるだろう（

エル [ウンドウ] イコール ダブリュエー わるダブリュ、●ヒャクよんジュウハチ、『ウ』ヒャクキュウジュウゴ、ヒャクよんジュウニ、『ウ』ヒャクハチジュウよん、ヒャクジュウキュウ、『ウ』ヒャクニジュウキュウ、ヒャクジュウハチ、『ウ』ヒャクニジュウハチ、ヒャクジュウ、『ウ』ヒャクジュウロク、ヒャクキュウ、『ウ』ヒャクジュウゴ

)。

トクにそれがおおきいくにもある。ジュウハチセイキは、エイコクのジダイなら、ニジュツセイキは、ガッシュウコクとニホンのジダイかもしれない。ニジュウイッセイキはチュウゴクのジダイというひとがいるかもしれないが、それはあったとしても、もうおわってしまったようだ。いまは、ヨーロッパのジダイではないか。

ヒャクゴジュウイチ、『ウ』ヒャクキュウジュウキュウ

ニンゲンは、なにかのウンドウがあって、イシキができる。イシキは、カガクブッシツやデンキシンゴウだから、そのうごきがさきにあるというわけである。しかし、たまにウチュウにもイシキがあるみたいなことをいうひとがいる。それが、ニンゲンのイシキのもとということであろう。

しかし、ものがうごかないイシキはないだろうから(もし、あるとすれば、シタイにもイシキがあるということになる。),「ウチュウのイシキ」もなにかのもののウンドウのケツカといえるだろう。キョクロンすると、

イシキ イコール ウンドウ

になる。

ただ、ウンドウをふやせば、イシキがふえるのかというのは、わからない。こういうわけだから、「ビッグバン」をウチュウのはじまりにするのは、まあまあダトウである。しかし、ウチュウのそとにウンドウやイシキがあるかもしれないとは、いえるだろう。

おわりに

このチョシヨは、イツカゲツもかからずまとめられた。キョウシユクではあるが、シュツパンした。なぜかというと、カガクブンヤのオウヨウケンキュウもダイジだが、キソケンキュウがダイジだとおもうからである。わたしは、キカイがあれば、キソケンキュウをしている。このチョシヨは、エルガク（ブツリガク）についてのそのあゆみである。ケンキュウをつづければ、またこれにつづくであろう。

ブツリガクはコウガクのキソでもあるので、このギロンから、あたらしいギジュツやセイヒンができかけている。そういうたのしみもこのケンキュウをすすめるイチジョとなっている。

ニセンジュウキュウネンハチガツなのか

エイゾウ

エルガク

ひとりブツリガクのチョウセン

ニセンジュウキュウネンハチガツニジュウイチニチ

ニセンニジュウネンゴガツニジュウハチニチ

iiitoga b007-3

エイチティティピーコロンスラッシュスラッシュアアイアイティオージーエーピリオ
ドシーオーエム

ティエスユーエスエイチアイエヌアットマークアアイアイティオージーエーピリオド
シーオーエム

『エルガクひとりブツリガクのチョウセン』

著 エイゾウ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
